

Gunma University Faculty of Medicine

# 群馬大学医学部

医学科・保健学科

入学案内 **2018**



人が診る、人を診る、人間性豊かな医療人になる



## Contents

### 目次

医学部長メッセージ	1
学科長対談	2
<b>医学科</b>	
医学科長メッセージ	6
医学科トピックス	7
医学科カリキュラム	10
私たちの大学生活	12
OB・OGメッセージ	14
<b>保健学科</b>	
保健学科長メッセージ	16
保健学科専攻構成	17
保健学科トピックス	18
保健学科教員	20
保健学科カリキュラム	24
私たちの大学生活	26
OB・OGメッセージ	30
クラブ・コミッティー	
オープンキャンパス	32
施設紹介	34
教育ポリシー	36
Question & Answer	38
インフォメーション	40

人が診る、人を診る、  
人間性豊かな医療人になる

## History of Gunma University Faculty of Medicine

### 沿革

- 昭和18年 4月 ● 前橋医学専門学校設置
- 昭和23年 2月 ● 前橋医科大学設置
- 昭和24年 5月 ● 群馬大学医学部となる
- 昭和30年 7月 ● 群馬大学大学院医学研究科(博士課程)設置
- 平成 8年10月 ● 群馬大学医学部保健学科設置
- 平成13年 4月 ● 大学院医学研究科を大学院医学系研究科に改称し、保健学専攻(修士課程)設置
- 平成15年 4月 ● 大学院医学系研究科医科学専攻に講座設置  
同保健学専攻博士(後期)課程設置
- 平成19年 4月 ● 大学院医学系研究科生命医科学専攻(修士課程)設置
- 平成23年 4月 ● 大学院保健学研究科設置





群馬大学医学部長  
石崎 泰樹

昭和18年に前橋医学専門学校が設置され、昭和24年に群馬大学医学部となり、昭和30年には大学院医学研究科（博士課程）が設置されました。平成8年に、医療技術短期大学の保健学科への改組に伴い、医学部は2学科（医学科と保健学科）となりました。平成13年に保健学の大学院（修士課程）が新設され、平成15年には保健学専攻（博士課程前期および後期）へと発展しました。また、平成19年には生命医科学専攻（修士課程）が設置されました。平成23年には大学院保健学研究科（保健学専攻）が設置され、昭和キャンパスにおける医学部2学科、2大学院（3専攻）の体制が整いました。

群馬大学医学部は北関東における医学・保健学教育と研究の中心として、医学科では多くの医師、医学研究者、医療行政者などを育成し、保健学科では看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士などを育成してきました。医学部附属病院は、地域医療の中核として社会に貢献しています。重粒子線医学センターでは、平成22年より日本の大学に最初に設置された世界最先端のがん治療装置を用いて重粒子線治療を開始しました。

医学科は、生命や人体の構造と機能を追求し、疾病の本態を解明し、それを克服するための方策を探求するとともに、優れた人間性をもつ医師や最先端の医学研究者を養成することを主な目的としています。保健学科は、総合的で先進的な保健学教育・研究を展開することを通して、保健医療の専門職として確固たる倫理観と豊かな人間性を持ち、社会的使命を果たすことのできる医療人の育成を目的としています。

医療の現場では医師と医師以外のスタッフから構成されるチームで患者さんの診療に当たります。群馬大学医学部は、医師を養成する医学科と医師以外のスタッフを養成する保健学科が同じキャンパス内にあります。医学科の学生と保健学科の学生は共通の講義もあり、クラブ活動も両方の学科の学生が参加しています。このことは、卒後に医師と医師以外のスタッフが患者さんに良いチーム医療を提供する素地になっています。

医学部では国際交流にも力を入れています。アメリカ合衆国、ドイツ、モンゴル、台湾、インドネシア、タイ、コロンビア、ニカラグアなどの大学とは、学部学生が国際間交流を行なっています。国際的に医療人として活躍しようと考えている人ばかりでなく、多くの学生諸君が先進国や途上国の医療情勢を体験し、外国の医学系の知人と情報を交換し国際感覚を培うことは、将来的にも有用で意義深いことです。医学部では今後も国際交流の充実を進めていきます。

医師として、あるいは看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士として、また医学・保健学の研究者として、人類の福祉のために貢献したいと願う人は是非群馬大学医学部で学ぶことを考えてください。



# 医療安全と多職種連携

医療安全を進めるために必要不可欠なのが、多職種の連携だ。情報共有を基本としたチームワーク医療の重要性と、これからの医療人を育てる本学の特徴的な教育システムや、求める人材像について医学科、保健学科両学科長が語り合った。

医学科長

**石崎 泰樹** (いしざき やすき)

昭和56年 東京大学医学部医学科卒業  
昭和60年 東京大学大学院医学系研究科修了  
昭和60年 岡崎国立共同研究機構生理学研究所特別協力研究員、日本学術振興会特別研究員  
昭和62年 東京医科歯科大学歯学部附属顎口腔総合研究施設助手（～平成9年）  
平成 3年 ロンドン大学ユニヴァーシティカレッジ生物学部客員研究員（～平成6年）  
平成 9年 神戸大学医学部助教授  
平成13年 群馬大学医学部助教授  
平成15年 群馬大学大学院医学系研究科助教授  
平成16年 群馬大学大学院医学系研究科教授  
平成29年 群馬大学医学部長  
群馬大学大学院医学系研究科長  
群馬大学教育研究評議会評議員

● 医学博士



## 参加型教育に重点を置く医学科 チーム医療で世界的に認められた保健学科

**石崎** 医学科の学部教育では、医療の現場を早期に体験すること、自分で学習しながら問題を解決する能力を培うこと、医療チームの一員として患者さんの診療を体験することなど、参加型の教育に重点を置いて、教育システムを改革してきました。またグローバルな視野の獲得を目指して、複数の留学プログラムを用意し、単位認定もしています。さらに、MD- PhDコースを設置し、医学研究に興味をもつ学生が早期に大学院教育を受け、通常より短期間で医学博士の学位を得ることを可能にしています。1年生の必修科目である「医の倫理学」は、本学らしい非常に特徴的な講義だと思えます。医の倫理はこうだ、と一方的に教えるのではなく、実際のケースを提示してどう思う？ と考え方を訓練します。正解

がある講義ではありません。考える習慣をつける上で有意義だと思います。また今年度医療の質・安全学講座を新たに設置しました。この講座は医学科、大学院医学系研究科において「医療の質・安全学」の教育を担当すると共に、附属病院の医療の質・安全管理部と連携して、医療の質・安全管理の実務に携わることになります。

**村上** 保健学科は、1996(平成8)年に立ち上がり、翌年から学生さんを受け入れています。現在は、看護師、保健師、助産師、理学療法士、作業療法士、臨床検査技師というメディカルスタッフの育成に力を注いでいます。立ち上げ時からずっと教育目標に掲げているのが「全人的医療」です。「全人的医療」とは、患者さんの疾患だけにとらわれず、心理面や経済面や社会面などを含めたさまざまな視点から、それぞれの患者さんに合った医療を提供しようというものです。本学科では「全人的医療」を達成するために最も大切なものは、チームワー

ク医療だと考え、その実習を行っています。本格的な実習が始まったのは1期生が3年生になった1999(平成11)年でした。そのときから毎年ずっと実施しています。最初は本学科だけで行っていましたが、今では選択科目ですが医学科の学生も参加しています。1つのチームは、看護専攻が4人、検査技術専攻が2人、理学と作業専攻が1人ずつ、医学科が2人くらいです。10人ほどが1つの模擬医療チームとなり、全部で10チームほどで実習をしています。実習先も高度先進医療、保健医療施設、精神医療施設、小児医療施設などの中から自分たちで決め、最後はそれぞれがやってきた実習内容を全体発表会で提示しています。これは、いろいろな施設のチーム医療を、学科全体で共有するために行っています。2008(平成20)年からは、同じようにチーム医療教育を重視してきた大学が集まり、これを広めていこうと組合のような組織、「日本インタープロフェッショナル教育機





# 対談

石崎 泰樹 医学科長



村上 博和 保健学科長

保健学科長

**村上 博和** (むらかみ ひろかず)

昭和53年 群馬大学医学部卒業  
昭和53年 群馬大学附属病院第三内科医員 (研修医)  
昭和58年 群馬大学医療技術短期大学部助手  
昭和62年 群馬大学附属病院第三内科助手  
平成 3年 群馬大学附属病院第三内科講師  
平成 6年 群馬大学附属病院輸血部助教授  
平成 9年 群馬大学医学部保健学科教授  
平成13年 群馬大学大学院医学系研究科保健学専攻教授  
平成17年 群馬大学大学院保健学科学科長、副医学部長  
(～平成21年)  
群馬大学大学院医学系研究科保健学専攻長  
(～平成21年)  
平成23年 群馬大学教育研究評議会評議員 (～現在)  
平成25年 群馬大学医学部保健学科学科長、副医学部長  
群馬大学大学院保健学科学科長

● 医学博士

関ネットワーク」を作りました。チーム医療の教育法を共有したり、英語の書籍を発行したりという活動が認められて、2013 (平成25)年にWHOコラボレーティングセンター (WHOCC) に指定されました。現在、日本国内でWHOCCの認定を受けている大学は12大学ありますが、保健人材育成部門で指定を受けたのは、本学科が国内および世界で初です。今では、チーム医療教育をアジアに広めるために、WHOと一緒に活動をしています。チーム医療教育で大切なのは、チームに医学科の学生さんが入ることだと思いますので、できればチームワーク実習を医学科の全員に履修してほしいですね。

**石崎** 医学科のカリキュラムは、改定中なので、チームワーク医療を必修にもってきたいですね。確定はしていませんが、早い段階で必修科目にしたいと思っています。実際、チームワーク実習を履修した学生から「参加してよかった」という意見が

上がっています。また、チームで実習に行って現場でそれぞれの職種がどうかたちで医療チームとして動いているかを見てるので、自分の職種だけではなく他職種も見えてきますから、大変に意義のあるものだと思いますね。

## 医学科と保健学科が同じキャンパス内にあることで生まれるメリットは計り知れない

**村上** 本学医学部の非常に特徴的で良い点の一つに医学科と保健学科が同じキャンパスにある、しかも病院まである、ということが挙げられると思います。実は保健学科の設置は比較的歴史が浅いので、他大学では離れた場所にあることが多いです。本学のように医学科と保健学科がまとまった場所に集中してあるのは珍しいですね。さらに同じところに病院があり、実習もできる。非常に恵まれた環境にあると思いま

す。

**石崎** 医学科と保健学科の共通のカリキュラムがあって、一緒に学ぶ機会もあります。実は、先ほど「全人的医療論」という医学科と保健学科合同の講義をしてきたばかりです。今は、アクティブラーニングの時代ですから、学生にグループを作ってもらい「チーム医療にとって最も大切なものは何か？」を話し合ってもらったんです。出てくる答えとして私が予想していたのは「コミュニケーション能力」ということだけかと思いましたが、実にいろいろな意見が出てきました。次に、その中で特に大切なものは何かを話し合ってもらい、そこで出た意見を元に、将来、医療に携わるときに「どういうことを大切にしたいかをチームメンバーとして貢献できるかを考え学んでほしい」と話したんです。お互いの専門領域を理解し合っ、情報を共有し、何を指すか？ と投げかけると「患者さん第一ということを考えて、一丸となって医療に取



り組むべき」という意見が出てきたんです。Patient First、こう言うんですね。良いことを言います。貴重な意見だと思いました。もう一つ素晴らしいと思ったのは「お互いの立場に関わらず対等にモノが言える雰囲気をつチーム内で作って行かなければならない」という意見。これも非常に大切なことですね。かつては、医師の言うことに口を出すのがはばかれる時代がありましたが、これからはそういう時代ではありま

のです。そのことが医療事故につながりかねませんから、「言える」でなく「言う」医療職にならないといけない、と学生たちには伝えていきます。そういう意味でも、医学科と保健学科の学生が日常的に交流できる本学の環境は、素晴らしいと思いますね。すでに「言う」環境を学生のうちから築き始めているわけですから。

**石崎** サークル活動も医学部〇〇部、というように文化部も運動部も一緒に活動して

## 医療安全にチームワークは不可欠 医療安全のために群大で日本初の試み

**村上** 学生に医療安全の大切さを説く上で、イギリスで起こった2つの有名な事件を例に挙げています。そのひとつは、ハロルド・フレドリック・シップマン事件です。英国の医師は2000年に、218名の患者を麻薬を用い殺害したとして、終身刑が言い渡されました。この病院では、複数の医師、看護師、薬剤師、理学療法士、診療所職員などがともに働いていましたが、誰も彼の犯罪に気づいていませんでした。もうひとつは、ヴィクトリア・クリンビー事件です。2000年に8歳の少女ヴィクトリアが救急搬送された病院で、低体温と低栄養で死亡しました。この少女が虐待を受けていたことは、地域の医師、救急病院、小児保健センター、保健師、ソーシャルワーカー、そして近所に住む住民も知っていましたが、情報は共有されず、ヴィクトリアは死亡しました。医療現場と地域社会との違いはありますが、両事件とも情報を共有化しなかったために起きた、あってはならない事故でした。これを機にイギリスの病院のチーム医療体制や医療安全対策、および児童虐待防止システムや法律が大きく変わりました。この2つの事件から、情報の共有、つまりチーム医療ができていないと医療安全がないがしろにされるということがわかります。繰り返しますが、医療安全の基本はチーム医療です。学生には、このことを肝に銘じてほしいので、1年次の早い段階から学生には話しています。

**石崎** 情報の共有化ですね。情報が共有化されていないと、何が重要なのか？ 何を最も優先すべきなのか？ がスタッフの中で分からなくなってしまうんですね。最初にもお話ししましたが、今年4月、大学院の医学系研究科の中に「医療の質・安全学講座」を設けました。本格的に医療の

せん。それぞれの職種から対等にモノを言うという雰囲気作りが大事です。学生たちはしっかり考えている、と感心しました。

**村上** 雰囲気というのはとても大切です。私も同じ講義を担当していますが、以前は「医者にモノを言える看護師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士になれ」という言い方をしていたのですが、それではダメなんですね。そこで今は「医者にモノを言う医療職になれ」と言い方を変えました。今の保健学科の学生は優秀です。医師の間違いを指摘・修正できる「言える能力」を持って卒業しているんです。でも現場では、言えるけど言わない。医療スタッフがものすごい能力を持っているけれど、言わない、言えないという環境がまだまだある

いますから、連携を深めやすいですね。私はオーケストラの顧問をしているのですが、両学科の学生が同じ目標に向かって一生懸命活動をしている様子がよくわかります。オーケストラで美しい音を作り出すためには、個々の技量が優れているだけではダメで、他のメンバーの出す音に耳を澄ませ、それに合わせて演奏することが大切です。医療の現場も全く同じだと思います。このように講義のみならず、部活動のレベルからお互いに交流することは、将来的に良い医療チームを構成することにつながると思いますね。



質を高めるにはどうしたらいいのか？ 患者さんの安全を担保するにはどうしたらいいか？ などを考え、研究して、病院の医療の質と安全を管理する部署がありますから、そこと連携して質の良い医療を提供していこうということを始めたとこです。これは日本で初めての試みと言ってもいいと思います。今までも、医学科では医療安全の講義をやっていたのですが、系統立てて教育するという点では不足点がありました。今回、系統的に教えていこうということで、学部生にも低学年のときから医療の質と安全の知識を教えて、大学院につなげます。当然のことながら、この講座による教育でも多職種連携及び情報の管理と共有化がキーワードになると思います。

**村上** 保健学科でも共同してやろうということになっています。今年度から大学院では、医療倫理に関する講義を医学系研究科と保健学研究科で共通の講義として実施しています。今までは、大学院レベルでの共通の講義というのはなかったんですね。それだけ大切だということです。

### アウトカムに向かって自ら学びチーム医療を推進できる医療人を

**石崎** 医学科は2016年9月にアウトカムを策定しました。アウトカムとは「卒業時に目指すべき学生像」のこと。医学科のアウトカムは「医学・医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることを理解し、科学的知Science、倫理Ethics、技能Skillの3つの面にわたって生涯自己研鑽を続けることができる学生」です。卒業時まで、自己省察力、知識の獲得と知識を応用する力、コミュニケーション能力、チーム医療の中で協働する力、基本的な総合診療能力、地域医療の向上に貢献する能力、医学研究を遂行する能力、自己研鑽という8つの能力(コンピテンシー)を身につけなければなりません。医学科では、多様な講義・実習を

提供して、皆さんがこれらの能力を身につけるお手伝いしますが、それだけでは十分とはいえません。学生さん自身が医学科で何を身につけ、どんな医師を目指すのかを常に真摯に考え続けてほしいですし、そういう学生さんであってほしいと思います。このことを記したカードを、すべての学生と教職員に渡しています。

**村上** 保健学科では、「高度専門医療人」と「チーム医療ができる医療人」を育てること



を目標にしています。ディプロマポリシー(学位授与の方針や育成する人材に修得を期待する能力)として、1.保健医療の中核を担う専門職業人となるために必要な知識と技術を備え、人間の尊厳を尊ぶ心を持つ人、2.保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させてゆく意欲と自己開発力を持つ人、3.チーム医療を担う自覚を持ち、関係する人々との相互理解と円滑な協働関係が築ける人、4.保健医療の諸課題に対して多面的視点からの柔軟な思考、的確な判断と対応ができる人、という4つを挙げています。また、先ほども申しましたとおり、保健学は新しい学問分野ですから、教育者や研究者が医学に比べて少ないという現状があります。本学科では、「高度

専門医療人」を育てるのが第一目標ではありますが、その一方で「保健学の教育者・研究者」を育てることも目標としています。教員一丸となって、しっかりと国際的研究業績を上げ、その研究力を基盤に大学院教育に当たっています。そこで、学部学生の大学院への進学を推奨して、教育者・研究者として活躍する人材の育成を進めています。

**石崎** 繰り返しになりますが、理想的な医

療人という、やはり患者さんファーストと考えられる人。疾患だけではなく患者さんの全体を考えるような医療人が「よい医療人」といえると思います。

**村上** 知識や技術は大切ですが、患者さんの気持ちになれない医療人はダメですね。「患者さんの気持ちがわかる医療人」を育てるために大事なものは、やはりチームワーク医療教育だと思います。医師、看護師、理学療法士、作業療法士、それぞれ患者さんに対する考えが違う中で、患者さんにとって最善の道筋を見つけ、実現するためにもチームワーク医療教育は重要だと思います。安全を含め、より良い医療を進める上ですべての基本になるのがチームワーク、多職種の連携なのです。





# School of Medicine

## 医学科長 石崎 泰樹

群馬大学医学部医学科は2016年9月にアウトカムを策定しました。アウトカムとは「卒業時に目指すべき学生像」です。それは、「医学・医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることを理解し、科学的知Science、倫理Ethics、技能Skillの3つの面にわたって生涯自己研鑽を続けることができる学生」というものです。

具体的には以下の8つの能力を身につけなければなりません。

### A. 自己省察力

自分にとって何が課題であるかを見定め、自己管理に努めながら、1つずつ課題に取り組むことができる。

### B. 知識の獲得と知識を応用する力

基礎医学、臨床医学の各分野における知識を身につけ、それらがお互いに関連していることを理解し応用することができる。また、医師が持つべき知は医学にとどまらないことを理解し自然科学をはじめとする幅広い分野の知識を身につけ、それらを医学・医療に応用する力を培う。

### C. コミュニケーション能力

相互理解と人間関係の構築を意識し、患者やその家族、スタッフと対話を重ねることができる。

### D. チーム医療の中で協働する力

医療チームの他の構成員と積極的に対話を重ねる意義を理解し、他職種の専門性を尊重しながら対等な立場に立って協働することができる。

### E. 基本的な総合診療能力

統合された知識、技能、態度に基づき、患者にとってより良い医療を提供するための実践的能力を有する。

### F. 地域医療の向上に貢献する能力

医療の社会的・経済的側面を把握し、地域医療に貢献するための能力を身につけている。

### G. 医学研究を遂行する能力

医学・医療の発展に資する研究を遂行する意欲と資質を備える。

### H. 自己研鑽

医師としてのキャリアを継続させて、生涯にわたり自己研鑽を行なう意欲を持ち続ける。

群馬大学医学部医学科を卒業するとこのような力を身につけた医師となり、臨床医として、基礎研究医として、あるいは公衆衛生医として、人類の福祉に貢献することができます。是非我々の一員となってください。

# 医学科

- 北関東を代表する国立大学医学部
- 北関東に広がる強力な関連医療機関ネットワーク





人体、生命の神秘を追求し、疾病の本態を解明し、それを克服するための方策を探求するとともに、優れた医師、真摯な医学研究者を養成することを目的としています。



- 国立大学医学部
- 先端医学研究拠点
- 早期体験実習
- MD-PhDコース
- 医療安全
- 海外医療機関実習

**Topic 1**

医療の質・安全学講座を全国に先駆けて設置

高いレベルの医療の質及びPatient Safety(患者安全)を目指し、全国に先駆けて医療の質・安全学講座を設置しました。この講座はWHO等の国際機関との緊密な連携のもとに教育研究活動を進めます。医学科の学生は、初年次から卒業時まで、さらには

卒後においても、系統的に医療の質・安全学を学ぶことができます。現代の医療はチーム医療であり、患者安全のためにはチーム内の多職種連携が不可欠です。この意味から保健学科の学生との共通講義・実習も設定されます。

**Topic 2**

低学年から大学病院や地域医療の現場で学ぶ早期体験実習

解剖学や生理学など医学科の専門科目が本格的に始まるのは2年次で、Student Doctorとして患者さんの診療に参加するのは4年次後半ですが、医学科では、1年次、2年次から医療現場で学ぶ機会を提供しています。1年次では大学病院の病棟おもに看護師さんとともに医療現場を体験する実習をおこないます。2年次では老人保健施設などおもに介護に従事する実習をおこないます。さらに4年次には選択科目として、保健学科の学生とともに学ぶチームワーク実習があります。医学科と保健学科の連携が良い本学の特徴です。いずれも多職種連携について学ぶ絶好の機会です。



**Topic 3**

スキルラボセンターの充実したシミュレーション教育

医学部附属病院のスキルラボセンターは、採血や気管挿管、縫合といった基本的手技から、内視鏡検査や超音波検査、そして腹腔鏡手術、ロボット手術などの最先端の医療技術までトレーニングを行うことができる、様々なシミュレーターを有する国内屈指の施設です。低学年の基礎医学の実習から高学年の臨床

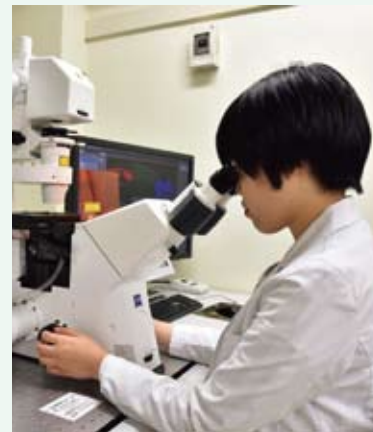
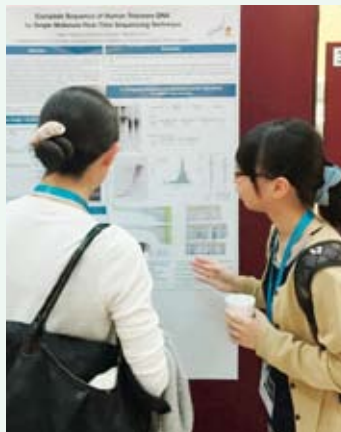
実習まで、様々な場面で医学科の学生が利用しています。低学年から実際の医療機器に触れたり、診療場面を再現するシナリオを設定してトレーニングをおこなったりすることも可能です。さらに、病院で働く医師や看護師、薬剤師などの医療従事者も利用し、医療技術の維持、向上に役立っています。



## Topic 4

## 学生のうちから研究に参加できるMD-PhDコース

医師には患者さんを診る臨床医の他に、病気の予防や治療を目指して研究をおこなう研究医もいます。研究医を目指す学生にはもちろん、臨床医を目指す学生でも研究に興味がある学生にMD-PhDコースがお勧めです。本学のMD-PhDコースでは、医学科の授業は通常通り受け、夕方などの時間を利用して研究室での活動に参加する方式をとっています。医学科卒業時にMD-PhDコースでの活動が認められれば、将来大学院に進学したときに通常より1年早く博士の学位を取得することが可能です。コースに参加する多くの学生が学会発表もおこなっています。夏には他大学の学生と研究討論会もおこなっており、医学研究についての夢を語り合うこともできます。



## Topic 5

## 海外医療の現場を体験できる留学プログラム

医学科では、夏休みなどを利用してドイツ、タイ、インドネシア、コロンビアなどの海外の大学や病院に行き、海外医療の現場を体験するプログラムが充実しています。海外の医療の実情を学び、他国の医学生と友達になるチャンスです。



## Topic 6

## 充実した学習環境

昭和キャンパスの図書館は24時間利用できます。医学の専門書・学術雑誌を中心に所蔵しており、いつでも閲覧できます。閲覧スペースに加え学習スペースも多くの学生に利用されています。グループ学習やディスカッションなどに利用できるスペースも設けてあります。試験を控えた学生は、友人同士で教えあいながら勉強に励んでいます。

図書館以外にも、キャンパス内には国家試験を控えた6年生用に24時間利用可能な、個別ブースを備えた自主学習室が設けてあります。机を並べて教えあい、励ましあいながら全員で国家試験突破を目指します。





## Topic 7

## チューター制度で入学から卒業まで学生をサポート

医学科では、学生一人一人にチューターとして教授を割り当て、個別に指導と助言を行う「チューター制度」を設けています。チューターは、入学時から卒業時まで一貫して学生をサポートします。学生生活において困ったことがあった場合、学修上の問題があった場合、留学先や研修病院先への推薦書が必要な場合など、あらゆる場面で相談ののり、適切なサポートをします。またチューター制度以外にも学生相談員なども設けており、教職員一体となって学生生活をサポートしています。



## Topic 8

## 豊かな自然環境

群馬県は東京から新幹線に乗れば1時間の首都圏ですが、大学のキャンパスは赤城、榛名、妙義の上毛三山に囲まれ、関東平野を潤す利根川が近くを流れるなど、自然環境に恵まれており、落ち着いて勉学に励めます。また、少し足を延ばせばスキー場や温泉、避暑地として人気の軽井沢と、いずれも思い立ったらすぐに友達と出かけられます。新入生歓迎行事は伊香保温泉、5年次春の合宿は草津温泉で毎年おこなっています。

医学科  
の  
特色

## 群馬大学で広がる未来！

- 臨床医に加えて理化学研究所などの研究者、WHOの医療行政担当者など多様なキャリアを可能にする医師免許
- 北関東に広がる強力な関連医療機関における臨床研修
- 初期研修と大学院博士課程の両立を可能にする卒前・卒後一貫MD-PhDコース

## 研究の特色

- 内分泌・代謝学、重粒子線治療を含む統合腫瘍学、神経系の再生医療など世界トップレベルの医学研究拠点
- 重粒子線治療を始めとする先進医療

医の科学 (Science)、倫理 (Ethics)、技能 (Skill) の探求とそれらの統合による医学の研究と教育の推進並びに医学と医療をリードする人材の育成を目指しています。

## 1 年次

## 教養教育

## 医師として基本的な素養と人間性を磨く

教養教育はおもに荒牧キャンパスでおこなわれます。医学部、教育学部、理工学部、社会情報学部すべての学生が交流し、様々な考え方に接することができる場です。医学を学ぶ上で必要な科学的素養を身に付けるとともに、医師として必要な、人と社会を理解する文化的素養を身に付けます。荒牧キャンパスは運動施設も充実しており、全学部で構成されるクラブ、サークル活動にも参加できます。

教養教育に加え、月曜日は医学部のある昭和キャンパスで医の倫理学や附属病院での実習など、医学科としての専門教育もおこなわれます。



## 2 年次・3 年次・4 年次前期

## 基礎医学・臨床医学

## 医学の基礎と疾患を理解し、医療人となるうえでの基礎を築く

2年次から専門科目が始まります。医学・医療の知識、技能、態度について講義、TBL（チーム基盤型学習）、実習を通して学びます。まず解剖学や生理学、生化学で人体の構造と機能を学びます。さらに病気を起こす原因や環境について学びながら、疾患の基礎を理解します。これらの基礎的な知識をもとに、個々の具体的な疾患の診断や治療について学びます。診察や治療の技能の修練にはシミュレーション教育を取り入れており、人体模型を用いて基本技能の習得に励みます。また、医療倫理、医

療安全、チーム医療をしっかりと学べるよう、充実した教育体制を整えています。さらに医学研究に興味のある学生はMD-PhDコースを選択して研究能力を磨くことができます。





## 4年次後期・5年次・6年次

## 診療参加型臨床実習

## 医師となるうえで必要な総合的診療能力を身につける

これまでに学んだ知識・技能・態度について、全国共通試験(CBT、OSCE)に合格した学生には、臨床実習をおこなうための Student Doctorの資格が与えられます。臨床実習では、附属病院および地域の医療施設の協力の下、診療参加型実習の拡充を図っています。診療参加型実習の中で学生はチームの一員として診療に参加し、スタッフや患者さんのご協力のもと診療の基礎を学びます。臨床実習でもシミュレーション教育を積極的に取り入れ、臨床の基本となる手技を確実に修得できる環境を整えています。



臨床実習を修了し、筆記試験と実技試験（臨床実習終了時OSCE）に合格すると卒業資格および医師国家試験の受験資格を得ることができます。

国家試験の合格は医師としてのスタートラインに立てたことを意味するに過ぎません。生涯を通じて学ぶ姿勢が必要です。



## 教育の特長①

アウトカム基盤型の  
医学教育を行っています。

卒業時に目指す学生の姿として「SESについて生涯自己研鑽を続けることができる学生」を掲げています。SESは Science、Ethics、Skillの頭文字で、それぞれ「科学的知、倫理、技能」をあらわしています。SESの理念のもとに、卒業時に身につけておくべき医師として重要な力（アウトカム）を8つ設定しました。①自己省察力、②知識の獲得と知識を応用する力、③コミュニケーション能力、④チーム医療の中で協働する力、⑤基本的な総合診察能力、⑥地域医療の向上に貢献する能力、⑦医学研究を遂行する能力、⑧自己研鑽。これらのアウトカムを6年間のカリキュラムで身につける、アウトカム基盤型の医学教育を行っています。



## 教育の特長②

群馬県内の医療施設と連携し、  
6年間の教育を支えます。

1年次から早期体験実習を導入しています。1年次では附属病院、2年次では県内の医療施設において、介護、福祉、診療におよぶ実習を幅広く履修します。4年次には保健学科学生と合同で実施するチームワーク実習で多職種連携について学びます。Student Doctorとしての臨床実習では、附属病院および地域の基幹病院や診療所を含む医療施設の協力の下、診療参加型実習の拡充を図り、地域の特性に応じた医療について学ぶ機会を提供しています。さらに卒業後には、新専門医制度にも対応した研修が受けられるよう、群馬県および県下の病院が一丸となって専門医取得までサポートする体制を整えており、安心して医師としてのキャリアアップが可能です。



医学科

角張 友隆 さん

- 医学部医学科3年
- 群馬県立前橋高等学校 出身

魅力的な人が多く、学生同士の仲が良い医学部  
求められる知識量は、責任の重さの表れ

Kakubari Tomotaka



魅力的な仲間が集う環境で学べる幸せ

医学部の学生は、明るく気さくな人ばかり。真面目で堅い人が多いイメージだったので意外でした。帰国子女、勉強もスポーツも頑張っている人、1年生のうちから興味のある研究室に自分から出向いている人、幅広い趣味を持っている人など魅力的な人が大勢いるし、学生同士の仲がとても良い。そういった環境の中で学べるのは、とても幸せだと思います。

解剖実習で医師の責任を強く意識

専門科目では、教科書の厚みにビックリ。最初は面食らいましたが、解剖学を学んでからは意識が変わりました。解剖学の教科書を開いて最初に書いてあった「ご献体は、あなたが最初に向き合う患者さんです」という一文に衝撃を受けました。これを読んだ時、非常に感慨深いものがありました。実際にご献体に手を合わせて、メスを使わせていただいたとき、医師の重みを再認識。これから人の命を扱っていくのだから、多くの知識量が必要だし、それが自分たちに求められて当然なんだと思い、身が引き締まりました。

高校の同級生で他校の医学部に進学した友人と話す、本学の特徴が際立ちます。研究にも力を入れていること、その道の第一人者のような有名な先生が多いこと、都市部の大学に比べて地元医療について考える機会が多いこと、介護施設に行く機会もあること、部活動が盛なこと、など挙げたらきりがありません。また、学生のうちから県内の病院に行けるので、キャリア形成にも大いに役立ちます。群馬で医師を目指す人は、本学へ進学するといろいろな面で良かった、と思えるはずです。

ツールとしての英語を身に着けることをおすすめ

高校時代を振り返って、英語をもっとやっておけばよかったと思います。講義のレジュメが英語ということは少なくありませんし、最新の研究や論文も大抵は英語で書かれています。自分の知的探究心を妨げないためにも、ツールとしての英語は重要です。



Time Table

	月	火	水	木	金
1	公衆衛生学	感染学・免疫学ユニット			
2					
3					
4					
lunch time	ランチ				
5	公衆衛生学	感染学・免疫学ユニット			
6					
7					
8					
9					
10					
after school	部活		部活		



医学科

喜多 碧 さん

- 医学部医学科6年
- 東京都 東京電機大学高等学校 出身

夢は臨床・研究・教育がバランスよくできる医師  
「医の倫理」で医療人としての原点を築く

患者さんの人生に深く関われる医師という職業に憧れ

中学1年生のとき、手術を受け身体が楽になったことで医師の頼もしさと、患者さんの人生に深く関われることに魅力を感じ、医師を志すようになりました。一人で群馬に来たときは不安でしたが、今は学部やサークル、アルバイト先でも友だちが増え、楽しい毎日を送っています。車の免許をとってからは、行動範囲も広がりました。群馬は草津や伊香保などの温泉が多く、スキーなども手軽に楽しめる良いところですね。

自分の原点を築く「医の倫理学」

大学ではMD-PhDコースを選択し、基礎医学の研究を行っています。研究は分かっていないところを自分で解き明かす面白さがあります。自分の思い通りにいかないことが多いのですが、その理由を考えたり、別の道を探ったりして解き明かす姿勢を学ぶこともできます。早い段階から研究に触れられたのは良かったと思っています。

1年生の必修である「医の倫理学」は印象深い科目です。医学の知識がない真っ新な状態で、病気や患者さんに関する答えの出ない課題について、考え、ディスカッションをします。そのときは難しく大変でしたが、振り返ってみると「知識も経験もない中で取り組んだこと」が良かったと思います。医療人としてやっていく中で、この経験は原点のようなもの。迷ったり悩んだりするときに、常に立ち返る場所ができたように思います。

乳腺外科で臨床・研究・指導ができる医師を目指す

実習でいろいろな診療科を経験させていただくうちに、「乳腺外科」に魅力を感じるようになりました。同じ女性として分かり合える部分が多いことに加え、検査～手術～治療と一人の患者さんとじっくり長く深く付き合えると思ったからです。それだけにコミュニケーション能力も求められます。将来は、臨床も研究も後輩の指導も、バランスよくできる医師になるのが夢です。

Kita Aoi



Time Table

	月	火	水	木	金
1	臨床実習				
2					
3					
4					
lunch time	ランチ				
5	臨床実習				
6					
7					
8					
9	研究				
10					
after school	研究				

## 群大で学んだチーム力 努力を続ければ夢は叶う

「母校・群大のためなら」と、海外から戻ったばかりの忙しい中、時間を割いてくれた笠原群生先生。1992年、本学を卒業した笠原先生は、小児生体肝移植手術数世界最多という、日本が世界に誇る移植外科医。仕事のやりがいや本学ならではの素晴らしさ、本学医学部を目指す人々へのメッセージを聞いた。

## Profile

かさらは・むれお

医学部医学科 平成4年3月卒業  
大学院医学研究科博士課程修了 博士(医学)  
国立成育医療研究センター副院長  
臓器移植センター長  
群馬県立前橋高等学校出身



笠原 群生先生



エジプトでの患者診察



インドネシア大学での手術指導



上海大学での手術指導後

### 子どもの笑顔と成長を 間近で見られる喜び

私は、名前の如く群馬生まれ。循環器の医師であった父に憧れ、父の母校でもある群馬大学に入学しました。大学4年生でテニス部の朝練終了後にテレビをつけたところ、島根医科大学（現在の島根大学）で生体肝移植が成功したというニュースを聞き、初めて移植医療を意識しました。命の炎が消え入りそうになっている患者さんが、移植をすることで再び元気になる、そんな夢のような医療を学んでみたいと思っていたところ、移植外科の日本の中心である京都大学で臨床研究生のポストがあると聞き、真っ先に手を上げました。当時の私は臓器移植の知識も経験もなく、周囲との知識や能力の差に愕然としましたが、経験の差は努力で補うしかないひとたすら努力を続けました。

今は、東京都にある国立成育医療研究センターで肝臓や腎臓の悪い子どもの患者さんの臓器を移植しています。当センターには世界中から患者さんも研修の医師もやってきます。やりがいは、移植で元気になった子どもたちの成長を間近で見られること。こんな幸せなことはありません。今は月に2～3回、海外に出向いて、当センターで研修をした医師が自国で移植医療を展開できるよう手助け

をしています。国際的な移植医療人を育成することにも、大きなやりがいを感じます。夢はこの世から移植を必要とする子どもの病気がなくなることです。

### 群大で学べたことで 今の自分がある

群大では生涯の友人がたくさんできました。壁にぶつかったとき、くじけそうになったとき、群大時代の友人の存在は大きな支えになっています。群大は、同級生同士、先輩と後輩、先生と学生と、人と人の距離が近いのがいいですね。だからといって、いつもベッタリしているわけではありません。人との関係を含めて「規律ある自由」が群大にはあるように思えます。年に2度、講義で群大に行きますが、お互いを尊重し、思いやりながら付き合う雰囲気は昔から変わっていないと実感します。群大の卒業生と聞いただけで人と人の触れ合い方を大切にできる、人と深い付き合いができると思います。

人との付き合い、これは、医療を行う際もとても大切なことです。医療にはチーム力が欠かせません。人との良い関係を作って仕事をすることを、私は群大で学びました。2005年、一人で当センターに赴任しましたが、ここでチームを作って、世界トップクラスの移植医療ができてきているのは、大学時代に仲間

を大切にしながらやってきた経験が生きているからだと思います。人生で一番大切な時期を、群大で、素晴らしい仲間と過ごせたことは、今の自分の土台になっています。群大で学べたことで、今の自分があると思います。

### 大きな夢に向かって羽ばたいて

若いころに何かを一生懸命にやることは、将来に向かって飛び出すためにネジを巻くことだと思います。たくさんネジを巻けば、飛び出すときにぐんと遠くまで飛ぶことができます。

群馬大学医学部を目指す人には、ぜひ世界一の医師を目指してほしい。「なれない」とか、「無理だ」とか思うかもしれませんが、諦めないで努力していると必ず夢は叶います。若い人の目の前には、無限の可能性が広がっています。勇気を持って、頑張ってください。





OB・OG Message

多彩な働き方ができる医師  
大学での学びが今の自分を作る



常川 勝彦 先生

Profile

医学部医学科 平成11年3月卒業  
大学院医学系研究科博士課程修了 博士(医学)  
群馬大学医学部附属病院検査部講師  
埼玉県立浦和高等学校出身

在学中から、卒業後は臨床を学ぶとともに早い時期から研究を始められるよう大学院に進もうと考えていました。卒業後、本学附属病院の内科に勤務し、その後は多くの症例を経験するために市中の総合病院に勤務しました。たくさんの患者さんと向かい合う中で、患者さんのことを、家族に囲まれ、社会の中の一人の人間として見るという、とても大事な視点を養えたと思います。3年目からは大学院に進学。最初の2年間でしっかりと臨床経験を積めたので、大学院では研究に没頭できました。その後、医学教育センターで医学科のカリキュラムの改変、臨床実習施設の拡充など、教育の仕事に携わってきました。今は附属病院の検査部に籍を置き、診療や研究のほか、学生や研修医の教育も行っています。医師の

仕事は、想像以上に幅が広いです。

検査部の役割は、患者さんに対して正確な検査を提供し、診療科の先生方に迅速に結果を届けることにあります。このため、検査部の医師は病院の診療を支える縁の下の力持ちとして、臨床検査技師とともに適切な検査の仕組み作りに日頃から取り組んでいます。また、病気を未然に防いだり、早い段階で見つけたりするため、より良い検査方法を研究するのも大事な仕事です。様々な病気に関わる検査部は、いろいろな部署との連携が重要であり、大学時代からの多くの人々とのつながりが今も仕事を通じて生きています。そして、今の自分を作っているのは、自主的に考える力や人に教える素晴らしさなど、本学で学び、経験してきたことと改めて感じます。

OB・OG Message

やりがいのある医師の仕事  
学生の熱い想いを大切に育み大輪を咲かせる手助け



田中 和美 先生

Profile

医学部医学科 平成16年3月卒業  
大学院医学系研究科博士課程修了 博士(医学)  
群馬大学医学部附属病院医療人能力開発センター助教  
京都府立西舞鶴高等学校出身

他大学の大学院で薬学を学んでいましたが、恩師に医学の道を勧められたことと、私自身がもっと人と直接関われる仕事をしたいと思ったことで、本学に学士入学をしました。

卒業後は附属病院で研修を行った後、手術を行う患者さんに寄り添いたいと、外科へ進みました。今は、臨床の現場で欠かせない医療技術を習得する施設、スキルラボに所属。全体の管理をしながら、シミュレーショントレーニングのセミナーを企画して学生の教育にも携わっています。医療安全の面からもしっかりトレーニングすることは大切。将来、医師になりたいという熱い想いを持って入学した学生の「熱」が維持できるお手伝いをしたい、やれば楽しいし、やって身につけばもっと楽しいということを伝えた

いと思って活動しています。その延長で「群大ではこんなことを教えてくれる」ということを世界中に広めて、活躍してくれる人材が育ってくれればうれしいですね。研修医時代に「1万人くらい救える医者になれるかもしれないね」と言っていただいたことがあります。1人で1万人を救うのは難しいですが、私が教えた100人の学生が、100人の患者さんにその想いを持って接してくれれば膨大と思えるその数も夢ではありません。人を育てることで自分一人ではできないことも可能になる、そういう面で教育の素晴らしさを感じます。

今まで決して緻密な計画を立てて進んできたわけではありませんが、漠然と抱いていた想いが本学で確実に叶えられています。





## School of Health Sciences

保健学科長 村上 博和

少子高齢化社会となった我が国においては、社会構造や生活習慣の変化に伴い、疾病・障害構造が大きく変化するとともに、介護問題をはじめ新たな保健医療的問題が多数生じています。国民の要望も多様化し、健康志向が高まり、生活の質の向上や健康寿命の延長が求められています。

しかし、我が国では医師、看護師をはじめとした医療人不足と保健・医療の地域格差が顕著となっています。一方、財政上人員を増やすことには制約があるため、保健医療人の資質を高める必要があります。また発展途上国では現場の保健医療人のみならず、教育者が不足しています。実は、我が国においても保健学教員が不足しています。よって、保健学マインドをしっかりと持った保健学教育者の養成も急務です。このような社会的要請に応えるには、学部における高度な知識と技術を持った医療専門職の養成に加え、大学院における教育・研究を充実させ保健学各領域における研究者と教育者の養成が必要です。

そこで、保健学科は、保健学教育と研究の充実に向けて様々な教育プロジェクトを立ち上げてきました。特に、保健学科設置以来継続していたチーム医療教育をさらに発展させるため、チーム医療教育の国内ネットワーク Japan Interprofessional Working and Education Network を構築しました。この活動が認められ、平成25年には WHO Collaborating Center に指定されました。保健人材育成分野では群馬大学が国内初です。

また、平成26年に文部科学省により行われた「ミッションの再定義」で、『群馬大学の理念等に基づき、「全人的医療」と「チーム医療」をキーワードに、確固とした倫理観と豊かな人間性をもち、高度な技術と知識を備え、チーム医療のリーダーとなる人材を育成する。医療系の国立大学として充実した研究環境を活かし、保健学研究を推進する研究者や教育者の育成を積極的に推進する。』ことが認められました。この評価は、保健学研究を推進する大学として認められたものです。

高度保健医療専門職や保健学研究者・教育者を目指す学生さん、是非群馬大学と一緒に勉強しましょう。

# 保健学科

- 国際的保健学研究の拠点形成
- 高度専門医療人の養成
- チーム医療教育の推進
- 地域包括ケアシステムの支援





## 保健学科

保健学科は総合的で先進的な保健学教育・研究を展開し、保健医療の専門職として、確固たる倫理観と豊かな人間性を持ち、社会的使命を果たすことのできる人材を育成します。

### 専攻構成

#### Fundamental Nursing



- 看護学
- 基礎看護学

看護学の入門及び健康で自立した生活を支える援助法に関する知識・技術と看護管理について学習する分野です。より積極的に有効な看護技法の研究開発を行い、教育—臨床実践の連携を目指しています。

#### Clinical Nursing



- 看護学
- 臨床看護学

成人期・老年期にある人々の健康増進、疾病・障害、終末期の看護について知識と技術を学習します。生活習慣病、がん看護、高齢者看護について研究を行っています。また、人々の心の健康を守る看護について教育・研究に取り組んでいます。

#### Maternal and Child Health Nursing and Midwifery



- 看護学
- 母子看護学

母性の発達、マタニティサイクル、出産の援助(助産)と母親支援について教育・研究に取り組んでいます。また、小児と家族の多様な健康ニーズに対応できるよう、多職種と連携を図った看護支援の教育・研究に取り組んでいます。

#### Community Health Nursing



- 看護学
- 地域看護学

国内での地域住民の健康増進や疾病予防に関する様々な保健活動、在宅で療養する人々や家族への看護支援、在日外国人医療及び国外での看護活動や国際看護協力などについての教育・研究に取り組んでいます。

#### Basic Laboratory Sciences



- 検査技術科学
- 基礎検査学

生物学、化学、物理学などの教養科目の知識を基に、臨床検査学の基礎を習得するための分野です。内容は、生化学、臨床化学、基礎生理学、免疫学、遺伝子学の教育と研究を行っています。

#### Clinical Laboratory Sciences



- 検査技術科学
- 応用検査学

基礎検査学で学んだ知識や技術を発展させ、臨床検査に応用する分野です。内容は、臨床生理学、微生物学、医動物学、血液検査学、病理組織学、細胞診断学の教育と研究を行っています。

#### Basic Physical Therapy



- 理学療法学
- 基礎理学療法学

主に運動器疾患とスポーツ障害の病態や理学療法について研究しています。また、介護予防や認知症のリハビリテーションにも積極的に取り組んでいます。

#### Clinical Physical Therapy



- 理学療法学
- 総合理学療法学

主に神経疾患、呼吸器疾患の病態や理学療法について研究しています。また、動作解析装置や加速度計などを用いた運動制御の研究にも積極的に取り組んでいます。

#### Basic Occupational Therapy



- 作業療法学
- 基礎作業療法学

障害を持った方々は、日常生活をすこやかに過ごすことが困難になります。この専攻では作業活動の視点から、日常生活をすこやかに送るために必要な筋や脳の働き、動作、行為、そして精神の働きなどを研究しています。

#### Applied Occupational Therapy



- 作業療法学
- 心身障害作業療法学

障害を持った方々が、快適で健康的な生活へ復帰するために、作業活動を治療的に展開する方法を修得します。身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害及び地域作業療法の領域における教育と研究を行っています。

#### Basic Sciences



- 医療基礎学
- 医療基礎学

学部では、教養教育科目や専門基礎・支持的科目を中心に、幅広く教育しています。研究は、生物学、生化学、分子生物学、神経科学、統計学、疫学、心理学、公衆衛生学、応用言語学と多岐に渡り、教員全員が大学院も担当しています。



群馬大学医学部は、発展途上の分野にも積極的に取り組み、深く掘り下げるとともにより実践的なプログラムを行っています。



- 保健学
- 全人的医療
- 高度専門医療人
- 専門看護師
- 臨床研究コーディネーター
- 細胞検査士
- チーム医療
- WHO協力センター
- 地域包括ケアシステム

### Topic 1

## WHO協力センターにおけるチーム医療の国際的リーダー育成

WHO協力センターの指定を受けた群馬大学で、さらに教育の充実を目指す

保健学科は、看護学、検査技術科学、理学療法学、作業療法学の4専攻で構成されています。全人的医療を担う高度医療人の養成を教育理念の基本におき、各専攻の専門教育とともに、チーム医療教育/多職種連携教育に力を注いできました。「チームワーク実習」はこの中核となる科目で、学内外約20施設の協力を得て保健学科と医学科の学生が参加して実習が行われます。

多職種連携教育ではWHO（世界保健機関）をはじめ国内外の機関や大学とも連携して学生教育の向上を目指してきましたが、こ

れまでの実績が認められ、2013年には群馬大学がWHO協力センターに指定されました。実行組織となる「多職種連携教育研究研修センター」が開設され、多職種連携教育の研究と研修を行っています。WHOとの連携を通して学生教育のさらなる向上を目指しています。

2010年には、多職種連携教育を学ぶ学生組織としてSIPECが設立され、学内での勉強会や講演会への参加などの活動の他、WHO本部や西太平洋事務局への訪問、学会や講演会での発表などを行なっています。

2016年9月にはオックスフォードで開催された国際学会ATBH VIIIでSIPECの学生がこれまでの学習成果を発表しました。これらの活動を通して、全人的医療を担い国際的に活躍できる医療人を育成しています。



### Topic 2

## 群馬一丸で取り組む在宅看護教育

文部科学省GP（特色ある取組）課題解決型高度医療人材養成プログラム

保健学科看護学講座は、平成26年度より文部科学省より補助金を受け【群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー事業】に取り組んでいます。これは、地域での暮らしや看取りまでを見据えた看護が提供できる「在宅ケアマインド」をもった看護師養成を強化するものです。

わが国は、世界に類をみないスピードで高齢化が進み、世界一の長寿国となりました。

超高齢少子多死社会に対応するため、病院中心から在宅中心の医療やケアへの移行が推進されています。住民が住み慣れた地域や自宅で、最期まで自分らしい生活が送れるように支援ができる人材が求められています。

全国的に先駆的な取り組みである本事業は、これらのニーズに合致したことであり、大学と県内の医療保健福祉の関係機関・多職種が一丸となって取り組みます。主な取

組み内容は、①1年次から「在宅ケアマインド」を養う学部教育改革、②大学院に「地域完結型看護リーダー養成コース」を開設、③実習指導者のための履修証明プログラム「地域完結型看護実践指導者養成プログラム」の開設です。これら卒前から卒業までの一貫した教育により、「在宅ケアマインド」をもって、地域のあらゆる場で切れ目のないケアを提供できる看護師養成をめざします。



### Topic 3

## 国際交流

国際感覚の向上と国際社会への貢献

保健学科は国際社会で活躍できる人材の育成を目指し、教員及び学生の国際交流を行うとともに、国際社会に貢献するために国際協力を行っています。ワシントン大学、ピュージェット・サウンド大学など米国の大学や、ニカラグア国立自治大学マナグア

校、モンゴル国立医科学大学、タイ王国ランシット大学及び大韓民国仁濟大学とも交流し、相互の訪問を行っています。学生は、留学生と一緒に学ぶ中で国際感覚や、国際社会で必要とされるコミュニケーション能力を養っています。留学生にとっては母国

の発展に役立つ知識や技術を得る機会となります。また、モンゴルでの理学療法士養成のための教育支援など大学が行う国際協力として注目され、高く評価されています。このように、保健学科全体で国際交流・国際協力に取り組んでいます。





## Topic 4

### 地域保健学リーダー

#### 地域活動と教育との一体化を目指した大学院教育プログラム

大学院保健学研究科では設置当初より昼夜開講等社会人学生に配慮した教育を実施してきました。その結果、現在、博士前期課程の約6割、後期課程の約8割が主に保健医療機関で働く社会人学生という特徴があります。そこで、これまでの教育を発展させ、さらなる地域活動と教育との一体化を目指した新しい大学院教育プログラム「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成」を構築し、平成19年から3年間文部科

学省大学院教育改革支援プログラム（大学院GP）の支援を受けました。平成22年度以降も教育プログラムとして継続しています。具体的には、地域の保健医療従事者を社会人学生として受け入れ、所属機関における研究課題を、所属機関と大学との共同で「地域保健学研究プロジェクト」として遂行します。学生はこの課程を通して、研究能力やリーダーとしての能力を体験的に修得し、大学院修了後は「地域保健学リーダー」として、

地域保健医療活動の推進や、大学との協力の促進における役割を果たすことが期待されま

す。平成28年度までに37名の学生が本プロジェクトの研究遂行者として認定を受け、地域社会で活躍しています。



## Topic 5

### 大学院における専門職養成プログラム

#### 専門看護師(Certified Nurse Specialist) 臨床研究コーディネーター (Clinical Research Coordinator)

高度化・専門分化が進む医療現場において、質の高い看護ケアを効率よく提供する専門看護師（CNS）の資格認定制度があり、資格をもつ専門看護師が病院などで活躍しています。CNSになるには特定の専門看護分野の実務経験と大学院博士前期課程での学修が必要です。本学では、がん看護・慢性看護・老年看護と母性看護分野の専門看護師を養成する教育課程が認可され、CNSコースとして大学院教育を行っています。さらに、がん看護・老年看護分野は、専門看護師の発展型であるケアとキュアの融合を目指す高度実践専門看護師教育課程（38単位）の教育をしています。CNSコース修了生は日本看護協会による資格認定審査に合格してCNSの資格を得ることができます。平成29年3月までに本学の修了生27名（がん看護19名、老年看護6名、慢性疾患看護3名、母性看護1名）が

資格認定審査に合格しました。

新しい治療法や予防法を確立するための科学的根拠は、臨床試験をはじめとした臨床研究から得られます。臨床研究の中核拠点となっている世界の研究医療機関では、臨床研究コーディネーター（CRC）やデータマネージャー（DM）と呼ばれる専門職が活躍して、臨床研究や疫学研究が進められています。質の高い研究を行うには、これら専門職のなかでも高度な知識やスキルを身につけた人材を欠かすことができません。しかし、わが国ではこれらの指導的人材を育てられる教育機関はごくわずかです。群馬大学大学院保健学研究科では、平成13年の大学院設置当初から、臨床研究専門職の指導者養成のための講義や演習を行ってきました。また、実践的な演習を含む「CRC管理者養成コース」を開講しています。コース履修者には、「臨床研究プロ

フェッショナル（臨プロ）」の称号が与えられます。

平成29年3月までに、9名が修了し、称号が授与されました。



## Topic 6

### 国際的保健学研究の推進

現在、保健学科ではグローバルレベルでの最先端研究の推進事業「就労女性疾病予防研究プログラム」が進行しています。保健学科の疫学専門家が、全国の看護職女性を対象に「日本ナースヘルス研究(JNHS研究)」という大規模就労女性コホート研究を運営し、遺伝的因子や生活保健習慣がどのように疾病発生に影響するかを調べてきました。JNHS研究が参加するInterLACE研究では、グローバルレベルの比較研究を行い論文発表するとともに、国際シンポジウ

ムを企画してJNHS研究の成果を世界に発信しています。「就労女性疾病予防研究プログラム」では、このJNHS研究と、米国ハーバード大学や豪州クイーンズランド大学などの女性コホート研究とグローバルな連携を強化して、遺伝的・環境的因子を調査解析し、就労女性のライフコースに合わせた疾病リスクを抽出して、今までにない先端的な個別化した予防法を提示しようとする新しい試みを行っています。



InterLACE研究に参加している国々(上図)と参加研究拠点の校章・シンボル(下図)  
(InterLACE研究ホームページから  
<http://www.interlace.org.au/web/Home.aspx>)

日進月歩の医療界において、研究活動と臨床は表裏一体。常に先端研究への取り組みが行われています。

看護学専攻

基礎看護学 浅野 修一郎 教授



人体構造・機能学の解剖分野を担当しており、同実習も担当しています。看護に役立つ解剖学をモットーに進めています。脳の発達や高次機能等中心テーマにしています。

看護学専攻

基礎看護学 近藤 由香 准教授



基礎看護学を担当しております。リラクゼーションをはじめとする補完代替療法、がん患者への緩和ケア、看護技術に関する研究に取り組み、よりよい看護を実践できることに貢献していきたいと思っております。

看護学専攻

基礎看護学 恩幣 宏美 准教授



看護実践能力向上に対する人材育成プログラムの開発について研究を行っています。また、妊娠糖尿病を経験した女性とその児の2型糖尿病予防に向けた、生活習慣支援教育プログラムの研究も行っていきます。

看護学専攻

基礎看護学 柳 奈津子 講師



看護における基礎的な技術——特に指圧・マッサージ、アロマセラピー、リラクゼーション法などリラクセスを促すための技術の効果の検証を行っています。また、リラクゼーション外来では、それらの技術を提供し指導しています。

看護学専攻

基礎看護学 辻村 弘美 講師



主な教育活動としては、基礎看護学演習や実習、コミュニケーションに関する授業を担当しています。また、異文化看護や認知症に関する研究なども行っています。皆さんの若々しく、そして力強いパワーをいただきながら、私自身も成長していきたいと思っております。

看護学専攻

基礎看護学 中村 美香 助教



1、2年生の基礎看護学の演習と実習を主に担当しています。研究テーマとしては看護管理学の中の看護職のキャリア形成やリスクマネジメントに関して関心を持ち取り組んでいます。

看護学専攻

臨床看護学 神田 清子 教授



がん患者・家族のセルフマネジメント、緩和ケア、End of Life Careに関する研究を行っています。大学院教育では、がん看護専門看護師の育成も行っています。がん相談に参加し、教育と臨床実践の有機的な連携を図っています。また、群馬がん看護ネットワークづくりを行っています。

看護学専攻

臨床看護学 岡 美智代 教授



生活習慣病患者における塩分制限や運動などの自己管理に関する研究を行っています。またエビデンスを活用した看護にも取り組んでいます。大学院では慢性疾患看護専門看護師の教育を行っています。<http://oka.dept.health.gunma-u.ac.jp/>

看護学専攻

臨床看護学 二渡 玉江 教授



手術を受けるがん患者の意思決定、心理適応過程の支援に関する研究を行っています。同じ講座の神田教授とともに、がん看護専門看護師教育、がん看護研究会、外来看護相談を行い、教育と臨床の連携、研究成果の実践活用を進めています。

看護学専攻

臨床看護学 近藤 浩子 教授



こころとからだを健康にしていけるヒーリングの研究を行っています。これをストレスマネジメントや疾患を持つ人への癒し技法として活用してもらうために普及活動を行っています。精神看護の教育では、グループ療法や認知療法的アプローチに力を入れています。

看護学専攻

臨床看護学 大山 良雄 教授



臨床医学に関する講義を担当しています。糖尿病、高血圧、脂質異常症などの生活習慣病に代表される慢性疾患に対する予防や療養指導の研究に取り組んでいます。特に、複数の慢性疾患を有する患者さんへの効果的な療養指導を考えていきたいと思っております。

看護学専攻

臨床看護学 内田 陽子 教授



専門は高齢者のアウトカム評価と経済的評価、ケアの質改善。現場のフィールド調査を基本とし研究を進めています。大学や臨床現場の教育活動、地域との連携活動と多岐にわたっていきいきと楽しく、明るく、前向きに活動をしています。

看護学専攻

臨床看護学 上山 真美 講師



老年看護学の講義や演習、実習を担当しています。膀胱留置カテーテル抜去後や排泄障害に対するケアプログラムの開発とその検証に取り組んでいます。また、高齢者への認知症等の介護予防や排尿障害・排便障害に対するケアの実践的な研究に取り組んでいます。

看護学専攻

臨床看護学 高橋 さつき 講師



腎臓病の患者教育普及に関する研究を行っています。患者さんがパソコンで腎臓病のことを学ぶeラーニング「腎臓ケアeラーニング講座」を開発し、Webで無料公開 (<http://plaza.umin.ac.jp/~jin>) しております。是非とも、ご覧ください！

看護学専攻

臨床看護学 坂入 和也 助教



精神看護学実習を担当しています。高齢者や発達障害児を対象とした動物介在活動（アニマル・セラピー）の実践、評価などを行っています。また、災害時の精神障害者の支援について、調査・研究を行っています。

看護学専攻

臨床看護学 塚越 徳子 助教



成人看護学演習と実習を担当しています。研究テーマは、がん患者・家族への看護支援です。特に、他疾病を抱えながら生活をするがん患者・家族に対する支援に関心があります。現在は、認知症状を持つがん患者・家族に対する看護支援について取り組んでいます。

看護学専攻

臨床看護学 菊地 沙織 助教

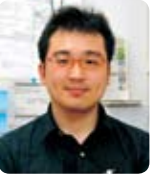


成人看護学の演習と実習を担当しています。研究テーマはがん患者の家族支援です。がんになつたとしても、患者とその家族が自分らしく生活できるように支援を見出せるよう、研究に取り組んでいます。



看護学専攻

臨床看護学 井手段 幸樹 助教



成人看護分野の演習と実習を担当しています。研究テーマは慢性疾患患者における運動療法に関してです。患者さんが自分自身の生活を病と共に豊かにできるように、取り組んで行きたいと思っています。

看護学専攻

臨床看護学 小山 晶子 助教



老年看護学の演習と実習を担当しています。高齢者が安全に、安心して生活できるための地域づくりや、身体疾患治療を受ける認知症高齢者へのケアに関する研究に取り組んでいきたいと思っています。

看護学専攻

臨床看護学 京田 亜由美 助教



成人看護学を担当しています。研究テーマは終末期がん患者さんの死生観や患者さん、家族、看護師間の生や死に関するコミュニケーションについてです。また、がん看護専門看護師として実践活動も行っていきます。

看護学専攻

母子看護学 常盤 洋子 教授



母親意識の発達に関する研究、出産体験の意味づけに関する研究、生涯学習の視点からとらえた助産師基礎教育と臨床の協働型継続教育プログラムの開発に関する研究を行っています。また、母性看護外来（看護専門外来）で妊娠・出産にかかわる悩みや不安に関する看護相談を行っています。

看護学専攻

母子看護学 篠崎 博光 教授



帝王切開の至適回数に関する研究、妊婦のシートベルト着用に関する研究、月経前緊張症と産後うつ病との関連に関する研究など周産期・ウイメンズヘルス関連の研究や多職種連携教育・協働に関する研究に取り組んでいます。

看護学専攻

母子看護学 佐光 恵子 教授



小児の健やかな成長発達やQOLの向上のために、小児保健・学校（思春期）保健を含む、子どもを取り巻く家族・社会の変化や新たな健康課題、多様なニーズに対応できるよう、多職種と連携して、新たな看護を創造し提供していくことが、今求められる「小児看護」の社会的使命と考えています。

看護学専攻

母子看護学 金泉 志保美 准教授



医療依存度の高い子どもの在宅療養へ向けての支援や、在宅療養中の子どもと家族のQOL向上のための支援に関する研究に取り組んでいます。また、乳幼児期の生活リズムと健康問題をテーマとした健康教育を手がけてきています。

看護学専攻

母子看護学 國清 恭子 講師



妊娠・出産にかかわるメンタルヘルスに関心があり、現在は臨床現場で使用できる出産体験のとらえ方をアセスメントするツールの開発に取り組んでいます。また、母性看護外来で主に妊産婦の看護カウンセリングも行っています。

看護学専攻

母子看護学 牧野 孝俊 講師



教育では、成長発達過程にある子どもの特徴やQOL向上を念頭に置き、小児看護学方法論、小児看護学方法論演習、小児看護学実習などを担当しています。研究では、「父親の育児不安やワークライフバランスの要因分析」や「児童虐待に対する世代間の認識の差異」、「慢性疾患児のストレスの要因分析」、「Interprofessional Educationにおける教育効果の分析」を行っています。

看護学専攻

母子看護学 深澤 友子 助教



母性看護学、助産学の演習や実習を担当しています。妊娠、出産、育児期における女性のメンタルヘルスに関心があり、現在は、早期産で児を出産した母親の母親意識に関する研究に取り組み、母子と家族を支えるためケアについて検討しています。

看護学専攻

母子看護学 鈴木 禎子 助教



母性看護学・助産学の演習や実習を担当しています。妊産婦の主体性を引出し、子育てにつながるバースプランについての研究に取り組んでいます。育児を見据えた妊娠期からの母子と家族を支えるケアを検討していきます。

看護学専攻

地域看護学 牛久保 美津子 教授



どんな病気や障害をかかえながらも、住みながら自宅で最期に安心して暮らせるための療養生活支援について、さまざまな角度から考え、取り組みます。

看護学専攻

地域看護学 佐藤 由美 教授



「地域での健康づくり活動の推進」、「生活習慣病予防の保健指導」、「在日外国人学校に通う子供の健康支援」など地域の健康課題に対し、保健師や地域住民等関係者と共同で実践的な研究に取り組んでいます。

看護学専攻

地域看護学 森 淑江 教授



看護分野の国際協力、諸外国の看護・看護教育制度、異文化看護、在日外国人・在外邦人への看護、災害看護などに関する研究を広く行うとともに、日本国内の国際協力に携わる人材や海外の看護職を対象とした研修も実施しています。

看護学専攻

地域看護学 石川 麻衣 准教授



「行政保健師の地区マネジメントの解明」など公衆衛生看護の機能・特質に関する研究、行政に所属する保健師の活動および教育方法に関する研究、市町村及び保健所の保健福祉活動や健康危機管理に関する研究に取り組んでいます。

看護学専攻

地域看護学 桐生 育恵 助教



地域看護学の演習や実習を担当しています。子どもからお年寄りまで、幅広い人々を対象とする保健師の役割や支援技術が研究テーマです。現場のスタッフとともに、地域の健康づくりに取り組みながら、実践的な研究に取り組んでいます。

看護学専攻

地域看護学 松井 理恵 助教



地域看護学実習や演習を担当しています。子育て支援に関心があり、家族や地域で子育てを支えていくための研究に取り組んでいます。地域の保健師や住民の皆さんと共同しながら取り組んでいます。

看護学専攻

地域看護学 リトン 佳織 助教



子供さんからお年寄りまですべての人が、安心して入院から退院後の療養生活を送れるようになるための、看護と多職種との連携に関する教育・研究をしています。

看護学専攻

地域看護学 箱崎 友美 助教



文部科学省 GP 課題解決型高度医療人材養成プログラム【群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー】の専任として、医療施設と在宅・地域をつなぐことができる看護職の育成に携わっています。また、帝王切開で出産した女性の産後支援について検討していきます。

検査技術科学専攻

基礎検査学 江本 正志 教授



当教室では、NKT細胞をはじめとする各種免疫担当細胞、並びに肝臓、腸管、骨髄を中心に私たちがその存在を明らかにした未知の細胞群の生体内における役割解明を中心に研究を進めています。  
●当教室のホームページ  
<http://www.geocities.jp/emotolab/>

検査技術科学専攻

基礎検査学 輿石 一郎 教授



生体内で恒常的に産生される活性酸素種・活性窒素種は、疾患と言う観点からは悪玉と考えられていますが、一方で、健康時におけるホメオスタシスと言う観点からは善玉であるとする考え方があります。当研究室では、これらの分子種が、善玉・悪玉としてふるまう方向性を決定する要因を解明しようとしています。



## 検査技術科学専攻

基礎検査学 中村 和裕 教授



たんぱくが異常に折りたたまれ、その結果として神経細胞が障害を受け、脳の病気の研究をしています。生化学的な手法に加えて、工学的なアプローチによる治療戦略を考えています。

## 検査技術科学専攻

基礎検査学 安部 由美子 准教授



種々の細胞で様々な作用を發揮している増殖因子アクチビンとインヒビン、及びアクチビンの結合蛋白質フォリスタチンの作用と産生調節機構を研究しています。インヒビンとアクチビンには複数の分子種が存在するため、分子種に特異的な測定法も開発しています。

## 検査技術科学専攻

基礎検査学 時田 佳治 助教



生体内では恒常的に産生される種々の活性分子種（酸素や窒素や硫黄）の恒常性維持や生活習慣病発症の機序という基礎と、健診データをもとにした疾患発症リスク因子の解析という臨床の両面から新規マーカーの探索や生活習慣予防のための生活や食習慣を明らかにしていきます。

## 検査技術科学専攻

基礎検査学 鬼塚 陽子 助教



感染症の中で、特に寄生虫に注目して研究しています。寄生原虫は、どのようなメカニズムで感染し、症状を引き起こすのか、ヒトと寄生虫との相互作用を、分子生物学的及び細胞生物学的的手法を用いて解析し、迅速診断や感染予防に役立てたいと考えています。

## 検査技術科学専攻

基礎検査学 笠松 哲光 助教



白血病などの血液疾患を対象として分子生物学的・免疫学的技術を用いた研究を行っています。疾患と宿主との関係を解明し、新しい検査法と診断法の開発を目指しています。

<http://ketsuken-gunma.kenkyukai.jp/special/?id=16646>

## 検査技術科学専攻

基礎検査学 茂原 美穂 助教



神経疾患についての研究を培養細胞を用いて行っています。治療に繋がる研究を目指しています。

## 検査技術科学専攻

応用検査学 村上 博和 教授



当研究室では、血液疾患、特に血液腫瘍の検査・診断法の開発を目的に基礎研究をしています。主に遺伝子学的技術や免疫学的技術を用いて研究をしています。この他、骨髄腫という血液腫瘍の日本のみならず、国際的治療研究グループにも参加しています。

<http://ketsuken-gunma.kenkyukai.jp/special/?id=16646>

## 検査技術科学専攻

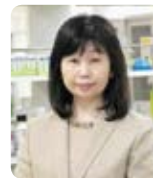
応用検査学 横山 知行 教授



心電図、肺機能、超音波、MRI、脳波などの生理機能検査を担当しています。現場のニーズに十分に答えられる臨床検査技師を目指すとともに、呼吸循環器に関する分子生物学から生理学までの幅広い研究を行っています。

## 検査技術科学専攻

応用検査学 嶋田 淳子 教授



当研究室では国際的感染症であるマラリアやトリパノソマを対象として分子生物学的研究を行っています。これらの病原体感染による宿主応答などについて分子レベル、細胞レベルで解析し、薬剤開発の研究も進めています。

## 検査技術科学専攻

応用検査学 齋藤 貴之 教授



専門は血液を中心とした腫瘍学です。研究は、分子生物学的アプローチにより疾患と宿主の関連を同定することを試みています。臨床の現場に役立つ研究を目指します。

<http://ketsuken-gunma.kenkyukai.jp/special/?id=16646>

## 検査技術科学専攻

応用検査学 齊尾 征直 教授



授業では病理学を教え、細胞検査士養成コースも担当します。「細胞の核形態の変化の仕組みの探求」「病理組織検体における画像解析法の応用」などが研究テーマです。着任1年目の新米です。皆さんが楽しく深く学べるよう頑張ります。よろしくお願致します。

## 検査技術科学専攻

応用検査学 吉田 朋美 准教授



患者さんから採取された細胞を顕微鏡で観察し、良性・悪性の鑑別、病気の判定まで行う「細胞診断」のスペシャリストを目指す学生でいっぱいです。また細胞材料を用い、早期診断に貢献できるような研究も行い、国内・外の学会発表も盛んに行っています。

## 検査技術科学専攻

応用検査学 松井 弘樹 講師



肥満や糖尿病が虚血性心疾患や動脈硬化、呼吸器疾患などに及ぼすリスクについて、ヒト、動物、細胞など様々な対象から分子レベルによる解析と、超音波検査やCT検査などの画像解析を合わせて検討することで、生活習慣病の予防へ向けた研究をしています。

## 検査技術科学専攻

応用検査学 松本 竹久 講師



病原細菌の同定検査や薬剤感受性検査などの臨床微生物検査を担当しています。当研究室では病原細菌を対象として、分子生物学的アプローチによる栄養要求性に関する研究や、新しい細菌培養法、細菌検査法の開発を目指した研究に取り組んでいます。

## 検査技術科学専攻

応用検査学 小林 さやか 助教



専門は病理組織・細胞診断学で、学部教育では標本作成技術や細胞診断学の実習を担当しています。また患者さんから採取された組織材料から、免疫染色を用いて発がんやがんの進展に関する蛋白を検索し、肺がんや子宮体がんにどのように関与しているか研究しています。

## 検査技術科学専攻

応用検査学 後藤 七海 助教

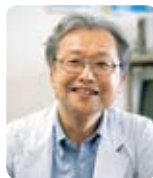


ゲノム情報を守るのに重要な「DNA修復」と免疫担当細胞を制御する「サイトカイン」、「ケモカイン」を中心に研究しています。血液系のがんや自己免疫疾患との関連を解明し、新しい検査・治療戦略に繋げることを目指しています。

<http://ketsuken-gunma.kenkyukai.jp/special/?id=16646>

## 理学療法専攻

基礎理学療法学 白田 滋 教授



基本的動作能力について、三次元動作解析装置などを用いた基礎的な研究や臨床で使用できる評価尺度の開発を研究しています。また、高齢者の健康関連体力や転倒、介護負担感、社会参加などに関する調査研究にも取り組んでいます。

## 理学療法専攻

基礎理学療法学 朝倉 智之 助教



臨床では中枢神経疾患の患者さんを中心に担当しています。教育については附属病院での臨床実習のコーディネート等で学生と関わっています。また研究活動として、三次元動作解析装置を用い健康者および患者の動作分析を行っています。

## 理学療法専攻

基礎理学療法学 佐藤 江奈 助教



解剖学実習、臨床理学療法実習、チームワーク実習などを担当しています。研究は変形性股関節症に対する装具療法を進めています。今後は、地域理学療法や多職種連携にも関わり、教育、研究を進めてゆきたいと考えています。

## 理学療法専攻

総合理学療法学 坂本 雅昭 教授



研究室では、1) スポーツ外傷・障害の理学療法、2) 中・高齢者及び障害者の健康評価と健康づくり、3) アスレティックリハビリテーションなどに関する研究を行っています。また、県内中学・高校サッカー、バスケットボール、野球大会等での理学療法サポートを行っています。

## 理学療法専攻

総合理学療法学 渡邊 秀臣 教授



運動器の病気や外傷、スポーツ障害に対して最新の診断法や治療法の研究を行い、またチーム医療教育の成果について研究をしています。治療面では手術療法と術前、術後の理学療法を包括的に活用する運動器機能回復治療の研究をしています。



理学療法学専攻

総合理学療法学 山路 雄彦 准教授



臨床では主に切断者や肩関節疾患を担当し、教育では補装具（義肢や装具）、臨床運動学、生理学実習、臨床実習などを担当しています。研究では、生理的振戦をはじめとした生体信号解析や三次元動作解析装置による歩行やスポーツ動作の解析を行っています。

理学療法学専攻

総合理学療法学 山上 徹也 准教授



地域リハや介護予防を専門としています。特に研究では認知症高齢者に対するリハの評価方法や介入効果を研究しています。障がいの有無に関わらず、すべての人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる地域作りにはリハの視点で取り組んでいます。

理学療法学専攻

総合理学療法学 久留利 菜菜 助教



呼吸・循環・代謝に関連する内部障害のリハビリテーションやNCDs (Non Communicable Diseases) の分野に興味があり、学部では主にPBLIIIで内部障害分野の理学療法を担当し、呼吸代謝測定装置等を使った運動指標や予防について研究を検討しています。また、学生のアメリカ研修の担当など国際保健の分野でも活動しています。

理学療法学専攻

総合理学療法学 中澤 理恵 助教



症例基盤型実習Ⅱなどの運動器系の授業の実習を担当しています。また、成長期（特に中学生年代）のスポーツ傷害予防に関する研究を中心に、県内中学・高校サッカー及び高校野球大会など、スポーツ現場での理学療法サポートにも取り組んでいます。

作業療法学専攻

基礎作業療法学 三井 真一 教授



遺伝子操作マウスを用いて精神発達障害の病態や発症機構に関する研究を行っています。また、夫婦や家族の絆が損傷神経の回復に及ぼす影響についても分子・細胞レベルで研究しています。これらの成果は精神疾患や神経再生の診断治療法開発の基盤となります。

作業療法学専攻

基礎作業療法学 菊地 千一郎 教授



専門は臨床精神医学です。脳機能イメージングを用いた認知神経科学研究を行っています。研究を通じて、よりよい治療法の開発につなげていきたいと思っています。国家試験に合格するだけでなく、後の臨床に役立つような精神医学の授業を心がけています。

作業療法学専攻

基礎作業療法学 李 範爽 教授



学部教育では作業療法の中でも主に身体障害領域の講義・実習を担当しています。また、脳機能画像法や運動生理学的手法を用いて、日常生活を営む上で必要な、感覚、認知、運動機能について研究しています。

作業療法学専攻

基礎作業療法学 池澤 麻衣子 助教



細胞内の膜小胞輸送に関与するタンパク質について、その局在や機能の解明をテーマに、研究を進めています。主に、マウスの各臓器や培養細胞を用いて、実験を行っています。

作業療法学専攻

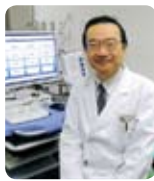
基礎作業療法学 下田 佳央莉 助教



注意などの認知機能を高める、効果的な作業療法の実践を目的に、脳機能計測装置などを用いた研究を行っています。加えて、がん患者さんにおける作業療法の役割についても、探究し始めた所です。主な担当授業は、チームワーク実習です。

作業療法学専攻

心身障害作業療法学 山崎 恒夫 教授



専門は臨床神経学で、主として細胞生物学的アプローチを用いた認知症の研究を行っています。今後は認知症によって生じる高次脳機能障害の分野にも研究のフィールドを広げようと考えています。

作業療法学専攻

心身障害作業療法学 今井 忠則 准教授



学部では、精神保健・メンタルヘルス領域における作業療法の専門科目を主に担当しています。大学院では作業療法理論、作業科学に関する講義を担当しています。作業参加と健康・well-beingとの関連を実証的に明らかにするべく調査研究に取り組んでいます。

作業療法学専攻

心身障害作業療法学 十枝 はるか 講師



発達障害の2次障害の予防につながる早期支援の在り方について研究しています。発達障害をもつ子どもが薬物療法といった医療の対象となる前に、適切な保育・教育環境による発達支援を提供する地域社会の構築に、作業療法士だからこそ貢献できると考えています。

作業療法学専攻

心身障害作業療法学 土屋 謙仕 助教



専門領域は身体障害の作業療法で、人間らしく生きる権利の回復、全ての方が自分らしく生活できるように取り組んでいます。また、脳卒中後抑うつ状態、認知症者のリハビリテーション、ライフスタイルと認知機能に関する研究に携わっています。

医療基礎学

医療基礎学 林 邦彦 教授



医療従事者からなる大規模女性コホート研究 (JNHS) で、日常生活や保健医療習慣がどのように健康に影響を与えるかを、経時的に調査しています。また、子宮内腺症患者コホート研究 (JEMS) など、集団を対象とした疫学という研究法で予防や治療の評価を行っています。

医療基礎学

医療基礎学 吉田 亨 教授



地域保健活動に不可欠な健康教育とヘルスプロモーションについて研究しています。住民（当事者）参加による保健福祉のまちづくりに関心があり、大学院では地域健康推進学を担当しています。

医療基礎学

医療基礎学 大西 浩史 教授



生体制御に関わる細胞シグナルの分子メカニズムと機能について、中枢神経系や生体のストレス応答を対象とした基礎研究を行っています。生命システムの姿を明らかにすることで、より健康で安全な暮らしの基礎を形づくることを目指します。

医療基礎学

医療基礎学 大庭 志野 教授



食生活や喫煙等が、生活習慣病の発症や死亡のリスクにどのような影響を及ぼしているか、疫学的な解析を行っています。また、疾病予防の知識の普及と行動変容の過程について研究しています。疫学方法論と生物統計学の保健専門職への普及に務めています。

医療基礎学

医療基礎学 村田 祥子 准教授



心理学の立場から、行動指標・生理指標を用いて人間の適応過程に接近を試みています。適応過程には学習機構が深く関わると捉え、主要な課題として記憶、学習の領域を位置づけています。

医療基礎学

医療基礎学 川島 智幸 准教授



専門は応用言語学です。国際英語論や非母語話者が話す英語と接することで、日本人英語学習者の英語を話す自信や国際的志向性、英語力の自己評価がどう変わるかを研究しています。また、効果的なスピーキングやライティングの学習法に関する研究にも取り組んでいます。

医療基礎学

医療基礎学 上宮 英之 講師



原始的な昆虫類が、どのような発生をするかを調べて、それを元に昆虫を含む節足動物がどのように進化してきたのかというものを研究しています。担当授業科目は、生物学Ⅰ、情報・昆虫の科学、動物の分類と進化、虫の名前を調べてみようです。

医療基礎学

医療基礎学 豊村 暁 講師



脳波 (EEG) や機能的磁気共鳴画像法 (fMRI) を用いて、ヒトの運動制御に関する神経科学研究を行っています。特に「吃音 (きつおん)」を調べています。事象関連電位、ニューロフィードバック、情動と視線行動などを現在の計測テーマとしています。

## Department of Nursing

## 看護学専攻

### 教育特徴

医療・保健の現場で看護の専門性を発揮できる能力と  
国際看護協力が実践できる能力を育成します。

生命、個人を尊重し、的確な看護を提供するために、看護の専門的知識や技術を学びます。病気を予防する健康教育、健康回復への支援、終末期ケア、人間のライフサイクル各期における看護、地域での暮らしや看取りまでを見据えた看護を習得し、高度・専門化した保健医療福祉に対応できるような教育を行います。

看護学専攻の教育目標は、在宅マインドをもち保健医療の専門職として、健康問題を有する人々に接する真摯な態度と生涯にわたる自己学習の習慣を体得することにあります。学生が将来、保健医療福祉におけるチームの中で看護の専門性を発揮し、ケアの調整やマネジメントにリーダーシップを発揮でき、さらに、国際化の進展に対応して世界の看護に視野を広げ、国際看護協力が実践できる人材を育成します。看護師または保健師、助産師になるために、看護学の基本的知識を理解し、科学的でクリティカルな思考能力と看護の実践に必要な基本技術を修得することを目指しています。

看護学専攻のカリキュラムは、看護師、保健師、助産師の各専門領域における知識や技術が効率よく修得できるように工夫されています。具体的には、①人間の身体的・精神的側面、人間を取り巻く社会環境についての学習、②看護学の基礎理論や方法論の学習と看護実践能力の修得、③人間のライフサイクル各期にお

ける健康の保持増進を図るための知識と援助技術の修得、④看護活動の場の拡大に対応した看護実践能力の修得、⑤健康障害者の看護を実践する知識と援助技術、態度の修得、⑥国や地域レベルの健康課題の解決とシステムづくりに関わる看護実践能力の修得から構成されています。先駆的に臨床と連携して看護専門外来を開設・運営し、卒後のキャリア開発の教育も目指しています。



## Department of Laboratory Sciences

## 検査技術科学専攻

### 教育特徴

高度な知識と技術を備え、国際的な活躍ができる  
臨床検査技師を育成します。

日進月歩で発展する検査技術科学分野の専門知識や技術を学び、検体検査、生理機能検査、病気早期発見のための検査、遺伝子検査、画像解析などをマスターして、高度・専門化した医療に対応できるような教育を行います。

検査技術科学専攻では、「全人的医療」・「チーム医療」・「バイオサイエンス」をキーワードに、確固とした倫理観と豊かな人間性をもち、高度な技術と知識を備えた臨床検査技師育成を目指しています。チームワーク実習を通じて、チーム医療の重要性を指導すると共に、遺伝子検査や画像解析などの最新検査技術の教育に力を入れています。

また、高度な臨床検査学の教育・研究体制を支える人材を育成するため、卒業研究に1年間を当て、各教員の指導のもと研究を行い、論文作成を行っています。これにより、十分な研究手法及び研究的思考法を習得し、将来研究職・教育職につく人材育成が可能です。また、国際社会で活躍できる人材育成のため、英語論文の輪読などを通して、英語による口頭・紙上発表の基本を学びます。さらに、国際的視野を広めるため、ワシントン大学医学部臨床検査学科との交換留学も実施しています。また、本学では細胞検査士養成コース（3～4年次）を開設しており、修了者は4年次に同資格認定試験（日本臨床細胞学会）の受験資格が得られ

ます。

このように、本専攻では日本のみならず、世界で指導的役割を担える臨床検査技師の育成を行っています。





## 教育特徴

## 新しい機能回復の理論、技術の研究・開発能力を育てていきます。

専門職としての態度や実践的な技能の修得が円滑に図れるよう、科目の枠を超えた教育を心がけ、机上での学習だけではなく、臨床での体験や実習などを通した能動的な学習への支援を重視しています。

少子・高齢社会という現代の日本において、疾病構造の変化や医療・福祉サービスの多様化、グローバル化に伴い、理学療法士に求められる社会的ニーズも拡大しています。その社会的ニーズに応えるためには、人間や社会を幅広く捉える知識と実践的で効果的な技術が求められています。理学療法学専攻では、医学や人間学等の知識をもとに、理学療法に必要な疾病と障害の成り立ちやその実態についての基礎的知識を学び、機能や障害を評価する方法、障害に対する運動療法、物理療法、補装具療法などの適応理論と臨床応用を学びます。また、運動器系理学療法学、神経系理学療法学、発達障害理学療法学、内部障害系理学療法学などの専門的な理学療法の理論と技術を習得し、急性期から地域や在宅での理学療法、健康管理やスポーツ分野での理学療法など、幅広い分野における理学療法について学びます。さらに、海外の理学療法に触れられる機会として、アメリカやモンゴル国での研修プログラムや留学生との交流にも力を入れています。そして、世界の視野でこれからの理学療法学の発展に貢献できる新しい理論や

治療技術の研究・開発能力を修得し、臨床・教育・研究の分野において活躍できる人材の育成を目指しています。



## 教育特徴

## 心と体に障害を持つ人々の生活支援の知識と技術を学びます。

健康機能を制限された人に対する専門的な判断力や接触態度を養い、作業活動の活用、評価・治療・援助及び研究に必要な知識と技術を学び、臨床実習で専門職業人としての学習を統合します。

作業療法は、心身の健康機能を制限された方々が、自立生活に必要な日々の生活技術や社会的適応能力を修得して、快適で個性的な生活を営めるように援助することを目標とします。また、作業活動を治療・援助の手段として、対象者の方々のニーズを満たし、心身の健康機能や生活の質の向上を目指すサービスです。

作業療法学専攻では、基礎分野として、科学的思考の基盤や人間と生活に関する教養科目を学び、人間理解を深めます。専門基礎分野として、人体の機能・構造や心身機能の発達、疾病や障害とそれらの回復過程、保健・医療・福祉とリハビリテーション理念を学び、専門性の基礎理解を深めます。専門分野として、作業療法過程の構築、評価、治療援助、地域生活への適応、臨床実習及び研究に必要な知識と技術を学び、専門職業人としての学習を統合します。

卒業生は、保健・医療・福祉など実践の職場で活躍するほか、大学院博士課程（前期・後期）に進学しています。作業療法士には、

近年、地域社会での障害予防や健康増進、特別支援教育の担い手としても期待が高まっています。

保健学科  
の  
特色

## 教育の特色

- 保健学の研究者・教育者の養成
- 高度専門医療人の養成
- WHO協力センターにおける国際的チーム医療教育
- アメリカやアジアの大学との交換留学
- 群馬一丸で取り組む在宅看護の大学一貫教育
- 大学院におけるがん看護、老人看護、慢性疾患看護、母性看護の4つもの専門看護師養成

- 大学院における臨床研究コーディネーターの養成
- チューター制度と学生相談員制度

## 研究の特色

- 保健学研究・教育センターによる国際的保健学研究の支援
- WHOから指定された「多職種連携教育の研究・研修を行う」世界唯一の専門機関（WHO協力センター）

保健学科  
看護学専攻

後閑 彩音 さん

- 医学部保健学科看護学専攻3年
- 群馬県立前橋東高等学校 出身

今までの人生で一番楽しい大学生活  
一人ひとりを尊重した看護ができる助産師が夢

Gokan Ayane



看護師のスキルを持った助産師を目指して本学科に入学

祖母、母、叔母と周りに看護師が多かったこと、人に優しくできる仕事がいいと思っていたことから、小学2年の時には「将来は看護師」と決めていました。高校時代、ドラマの影響で看護師のスキルを持った助産師になりたいと思い、両方の国家試験受験資格が得られる本学を志望しました。高校時代は、勉強も部活も頑張ろうとやってきたので、辛いことがあっても乗り越える力や諦めない姿勢が身に付きました。振り返ってみると、もっと計画的に勉強しておけば良かった。1年生のうちから計画を立ててコツコツ頑張っていた方が余裕を持った高校生活を送れるし、受験もスムーズに乗り越えられると思います。

自ら学ぶ姿勢が問われる大学での学び

大学では自分の興味のあることが学べるので、高校のときは勉強に取り組む姿勢が違います。好きな講義は、助産学総論と母性看護学。看護に必要な倫理観や考え方を教えていただけるのは有難いですね。他校と同じ看護の道に進んだ友達と話して思ったのは、群大は教え方が丁寧。内容も深いですね。実習も充実しています。同じ敷地内に附属病院があり、しかも極めて専門的な治療が必要な三次救急もあるので、勉強になると思います。2年時の実習は、自分がどういう看護がしたいかを見つけられる良い機会となりました。自分のできていないところを認識し、今後力を入れるべきところにも気づけました。私は、患者さんの情報をもらっても、それを読み取る力がなかったので、看護計画が立てられず、予想される病気のリスクも考えられませんでした。身になる実習にするためには自主性が大事。改めて大学の勉強は、自ら学ぶという姿勢が問われますね。

部活と勉強、双方の知識が生かし合えることにやりがい

大学は楽しそうと思っていましたが、予想を通り越して今までの人生の中で一番楽しい。部活ではバスケットボール部でマネージャーをしています。人をよく見ること、サポートするという姿勢は看護で生きるし、看護の知識も部活で生かれます。やりがいがあります。



Time Table

	月	火	水	木	金
1		医療生命倫理	国際看護学	成人看護学 方法論演習Ⅰ	災害看護学
2					
3	疫学		精神看護学 方法論	成人看護学 方法論演習Ⅱ	
4					
lunch time	ランチ				
5	在学看護学方法論		管理看護学	地域看護学 方法論Ⅲ	
6					チームワーク実習
7	老年看護学 方法論演習	小児看護学 方法論演習	母性看護学 方法論演習	地域看護学 方法論演習Ⅰ	
8					
9					
10					助産学総論
after school	部活	アルバイト	部活	アルバイト	部活



保健学科  
検査技術  
科学専攻

田村 綾香 さん

- 医学部保健学科検査技術科学専攻3年
- 群馬県立高崎経済大学附属高等学校 出身

知的好奇心を満たす群大の講義  
受験の先には楽しい学生生活が待っている

人の役に立つ仕事+実験好き → 臨床検査技師

人の役に立つ仕事に就きたいと思い、医療の道に進みたいと考えるようになりました。医療に携わる職種はいろいろありますが、自分が実験好きだったことから臨床検査技師に興味を持つようになりました。決め手は、オープンキャンパスのとき、顕微鏡を使って細胞を見せてもらったこと。純粋に「面白い!」「もっと深く学びたい」と感じ、本学の検査技術科学専攻を志望しました。

自分の手を動かす検査で深まる基本原理の理解

3年生になって履修科目の全てが専門科目となり、俄然面白さが増してきました。好きな科目は病理実習と免疫実習。病理実習の標本づくりは、難しいけれどやりがいがあります。臓器を薄く切ってスライドに貼り付け、染色液に標本を浸すのですが、組織を薄く切ることや染色液に漬けるタイミングが難しかった。免疫実習は始まったばかりですが、様々な反応が見られるのが興味深いところです。どちらも講義で教わったことを実験で確かめるのですが、自分の手を動かすことで認識が深まります。検査は機械を駆使して結果を出すイメージがありますが、本学では自分たちの手を使うアナログ的な方法の検査も多いと思います。その分、基本原理を身を持って理解し、機械だけに頼らず自分で考えて作業をする習慣がつかえますね。

学生生活の充実度を高めるサークル活動

生協学生委員会というサークルに入って、新入生交流会や、履修相談などを企画・運営しています。全学部対象なので、交友関係も一気に広がりました。サークル活動に真面目に取り組んでいることで、学生生活が一層充実していると思います。

受験勉強は辛いことが多いと思いますが、その先には楽しい、本当に楽しい大学生活が待っています。大いに期待して、今を乗り越えてほしいと思います。

Tamura Ayaka



Time Table

	月	火	水	木	金
1			臨床化学Ⅱ	保健行政論	
2					
3	臨床生体機能学Ⅲ、Ⅳ		臨床化学実習Ⅰ	検査管理総論	RI検査技術学
4					
lunch time	ランチ				
5	病原生物学		臨床生体機能学Ⅴ	細胞診断学Ⅰ	
6					チームワーク実習
7	病原生物学実習		臨床生体機能学実習		
8		生体防御学実習			
9					
10					
after school		サークル			

保健学科  
理学療法学専

西村 麻由子 さん

- 医学部保健学科理学療法学専攻3年
- 長野県松本深志高等学校 出身

## チームワーク実習でさまざまな発見 刺激ある環境づくりにも欠かせないサークル活動

Nishimura Mayuko



### 好きなスポーツと興味のある医療で理学療法士を目指す

高校生のころ、大学に行きたいとは思っていましたが、将来の明確な目標がなかなか決まらなかった。そんな中、私自身がスポーツをするのも見るのも好きなので、スポーツに関わる職業を調べると、理学療法士がヒット。漠然とではありましたが医療に興味があったこともあり、自分の好きなことが組み合わせられた職業だと思って決めました。

### 新鮮な「チームワーク実習」

大学は、良い意味で予想外。人数が少なく高校の延長のよう。同学年はみんな仲が良く、専攻全体での行事も多いので学年を超えたつながりも強まります。イベントは、OBやOGに参加していただけることもあります。おかげで、実際に社会に出て働くことや、やりがいなども聞くことができ、将来がイメージしやすくなりました。また、2年生の実習で、患者さん一人ひとりに向き合って丁寧にリハビリをする先輩PT（理学療法士）の姿がとてもまぶしく映りました。患者さんに頼りにされているのが伝わってきて、純粋に「カッコイイ、私も患者さんに信頼されるPTになりたい」と心から思いました。

講義はどれも興味深いです。今年から始まった「チームワーク実習」は今までにやったことがない内容でとても新鮮です。看護4人、検査2人、理学、作業から1人ずつの6人でチームを作り、与えられた一つの症例についてそれぞれの立場から意見を出し合います。他専攻の人たちから理学療法士に望むことが聞け、今まで気づかなかったところに光を当ててもらった気がします。これから始まる病院実習もこのチームで行きます。このように学生のうちから他職種の人と意見を交わすことは、将来きつと生きると思います。

### 群大医学部は文武両道

私か所属する部活は、保健学科バレーボール。行事や練習試合を通して医学科とも自然に交流が生まれ、交友関係が広がりました。課題に追われてつらい時もありますが、頑張っている仲間から刺激を受けて私も頑張れる。入学したら、サークルに入ることをおすすめします。



### Time Table

	月	火	水	木	金
1			臨床理学療法学Ⅲ	整形外科学Ⅱ	
2					
3	臨床運動学			神経内科学Ⅱ	
4					
lunch time	ランチ				
5			臨床理学療法学Ⅰ	臨床理学療法学Ⅱ	
6					チームワーク実習
7		理学療法研究法入門	臨床理学療法学実習	臨床理学療法学実習Ⅱ	
8					
9					
10					
after school	アルバイト	部活	アルバイト	部活	



保健学科  
作業療法学  
専攻

吉澤 友菜 さん

- 医学部保健学科作業療法学専攻3年
- 群馬県立沼田女子高等学校 出身

興味のあることを存分に学べる充実感  
さまざまな専攻や科が混ざり合うサークルも楽しい

精神科領域への興味と人との関わりを考慮して決めた作業療法士

高校時代から医療に興味がありました。中でも精神科領域に関心があったことや、人と関わる職業に就きたいと思っていたことで、作業療法士 (OT) になろうと思いました。姉が本学の作業療法学専攻に通っていて、とても楽しそうだったことにも影響されました。自分が大学生になってみると、傍で見てよりずっとずっと楽しい！ 専攻は穏やかな人ばかりで、実習や実技に関わるうちにじわじわ仲良くなっています。その緩やかさ加減も私には心地よく、気に入っています。サークルは医学部軽音楽部で、いろいろな専攻や科の先輩や友達ができました。月1回のライブに向けて練習をしたり、頑張った後にみんなで食事をしたり。恵まれた人間関係の中、本当に楽しく満ち足りた毎日を送っています。

実習でOTの責任を実感。患者さんにとって話しやすいOTが夢

もともと精神科領域の勉強がしたかったので「精神医学」や「神経内科学」の講義は特に面白いですね。2年生の見学実習では、希望が叶って精神病院へ。患者さんがOTを信頼している様子がよく分かったし、患者さんとOTは、「人」と「人」であって、自分の積んだ経験が反映される仕事だということも分かりました。実習中は、患者さんへの声掛けのタイミングや記録の書き方など、納得いくようにできず、悔しい思いをしました。また、OTの働きかけによって、将来の夢を語るまでに回復した患者さんがいらつしゃると聞き、OTは患者さんの人生に影響を与えるほど責任のある仕事なんだ、と気が引き締まる思いがしました。実習に行ったことで「やるべきこと」もイメージし易くなりました。自分の学びが、患者さんに影響を与えることがよく分かったので、以前にも増して講義に身が入るようになりました。活躍できる場が多岐に及ぶOT。卒業後は、患者さんが心を割って話せるOTになりたいと思っています。

受験勉強がうまくいかないときは…

受験勉強は先が見えず、心が折れそうになるときもあると思います。その先には、きっと良いことが待っています。未来に目を向ければきっと乗り越えられます。大丈夫！

Yoshizawa Yuuna



Time Table

	月	火	水	木	金
1				整形外科Ⅱ	
2					
3	作業療法評価学 実習		老年期障害作業 治療学Ⅰ	神経内科学Ⅱ	身体障害作業 治療学Ⅰ
4					
lunch time	ランチ				
5	地域作業療法学 概論/各論		総合能力評価学	精神障害作業 治療学Ⅰ	
6					チームワーク 実習
7	日常生活活動学			発達障害作業 治療学Ⅰ	
8		作業治療学実習			
9	日常生活活動学 実習			精神医学Ⅲ	
10					
after school			アルバイト	部活	

卒業生からのメッセージ

OB・OG Message

医学部保健学科看護学専攻



菊地 沙織 先生

Profile

医学部保健学科看護学専攻 平成19年3月卒業  
大学院保健学科研究科博士前期課程修了  
群馬大学大学院保健学研究科助教  
栃木県立矢板東高等学校出身

やりがいにあふれる看護師  
群大でさらに広がる看護の仕事の可能性

卒業後、本学附属病院と他県の大学病院で共に3年間、看護師として勤務しました。今は本学大学院保健学研究科で助教として後身の指導にあたりながら、がん患者の家族支援についての研究に取り組んでいます。

勤務し始めたばかりのころ「小さな漏れが大きな事故につながりかねない」と厳しく指導していただいたことは一生の宝です。

未来の看護師を育てる立場として大切にしているのは、患者さんの背景を理解すること。病気だけにフォーカスすると画一的なケアになってしまいますが、背景を理解すれば個人を尊重したケアができ、患者さんにもご家族にも満足していただけます。そのことが自分のやりがいにも成長にもつながるのです。

看護師を目指す学生さんは、何よりも人と関わるのが好きな人であってほしいと思います。患者さんの気持ちに寄り添い、患者さんが求めていることを的確にキャッチするためにも、一般の人が普通に暮らす「地域」にも目を向けてほしいですね。看護師はたくさんの人と関わり合え、自分自身を成長させることができる素敵な職種です。活躍の場も病院だけでなく、企業、在宅、介護施設、福祉施設、海外と幅が広がっています。特に本学は、在宅看護や他職種連携に力を入れる一方で、海外の大学との交流も盛んで、無限の可能性が広がります。本学で夢の一步を踏み出し、自分を高めてほしいと思います。

OB・OG Message

医学部保健学科検査技術科学専攻



佐藤 文則 さん

Profile

医学部保健学科検査技術科学専攻 平成26年3月卒業  
SUBARU健康保険組合太田記念病院勤務 臨床検査技師  
群馬県立太田高等学校出身

責任が大きい分やりがいも大きい臨床検査技師  
沢山の人の知ってほしい

生まれ育った地元で働きたいと思い、市内の病院に就職しました。1～2年目は血液・輸血部門に、3年目からは病理部門に配属。今の部門は病気の診断をするために、患者さんから採取された検体の標本作りをするのが主な仕事です。検体をマイクロメートル（※）単位の薄さに切ってスライドガラスに載せ、染色をして標本を作ります。この標本が、医師が病気の治療や手術の進め方を決める判断材料になるので、責任は重大。正確さや慎重さが求められます。手術中に提出された検体の悪性度を評価する「術中迅速検査」では、通常1日くらいかけて作る標本を30分ほどで作る、病理医に診断してもらわなければならないので、さらにスピードも大切になってきます。神経を使いますが、影響力の大きさがその

ままやりがいにつながります。

目標は、難しい判断もでき、周りから「佐藤さんに聞けば大丈夫」と思ってもらえるような頼られる臨床検査技師になること。同じ職場に目標となる先輩方がいるというのは励みになります。

医師や看護師と比べると、臨床検査技師は表舞台に立つことが少ない分、まだまだ知られていない存在ですが、やりがいがある素晴らしい職業だと思います。目指してくれる人が増えると嬉しいですね。

※1マイクロメートル=1000分の1ミリ



## OB・OG Message

医学部保健学科理学療法学専攻



岡元 翔吾 さん

## Profile

医学部保健学科理学療法学専攻 平成26年3月卒業  
 大学院保健学研究科博士前期課程修了  
 JCHO群馬中央病院勤務 理学療法士  
 長野県上田高等学校出身

2つの現場を知ること広がる見解  
群大で築いた縁に感謝

大学院で学びながら、整形外科と地域スポーツという2つの現場で、理学療法士として患者さんやスポーツ選手と関わっています。

大学院では自分の研究に取り組む傍ら、モンゴル人留学生の研究のサポートをしています。母国と遠く離れた群馬で懸命に頑張っている留学生の姿はよい刺激。自分も頑張ろう、と意欲が湧きます。病院では、患者さん一人一人の目標に沿ったリハビリプログラムを作って実施。地域スポーツでは、県内で開かれる中高生のサッカー、バスケット、野球の大会等でメディカルサポートスタッフとして選手のサポートをしています。「病院」と「スポーツ現場」という異なるフィールドを経験することで同じ病気でも、患者さんが置かれている立場や状況

によって求められるものが違うということに改めて実感。病気ではなく、患者さんを見る大切さを心底感じています。現場で湧き上がった疑問を大学院で研究として取り組み、結果を臨床に生かせるのは社会人でもあり大学院生でもあることのメリットだと思います。

本学の理学療法学専攻は、1学年20人。1～4年まで、学年を超えて縦のつながりができたのは本当に良かった。博士前期課程のときに国際学会でポスター発表をする機会に恵まれましたが、声をかけてくださったのは大学繋りの先輩。世界の情勢を垣間見ることができたし、視野を広く持つことの重要性を実感できたのも、群大で築けた縁があったからこそ、とても感謝しています。

## OB・OG Message

医学部保健学科作業療法学専攻



滝沢 伊吹 さん

## Profile

医学部保健学科作業療法学専攻 平成28年3月卒業  
 大学院保健学研究科博士前期課程在学中  
 前橋積善会厩橋病院勤務 作業療法士  
 長野県須坂高等学校出身

大学院と就職の二足のわらじ  
大学での学びが土台となって自分の経験が積み上げられる

大学を卒業してすぐ就職し、大学院にも進学しました。進学を考え始めたのは、大学4年生のとき。実習で患者さんのプログラムを考えると、迷いが生じたことから、論文を読み解いてプログラムに活用したい、もっと科学的な根拠や裏付けに基づいたプログラムを提供したい、研究方法を知っておきたいと思うようになったこと、地域に根差したレベルの高い学びを期待して進学しました。同期の男子学生4人全員、同じ道を目指したので心強いですよ。情報交換をして励まし合いながら頑張っています。大学院では脳の動きを見る研究をしています。疑問に感じたことの根拠を自ら調べ、知ることができるので身になりますね。昼間は、前橋市内の精神科・神経科の専門病院で、集団でのリハビリ、病棟内のレク

リエーション、社会復帰プログラムの作成などをしたりしています。仕事と学業の両立は大変ですが、先輩OTの仕事ぶり、患者さんが良くなる様子に触発されるのを見ると力が湧きます。

社会に出ると、大学の講義で教わったことと違う、と思うことがあります。だからといって大学での学びが役に立たない訳ではなく、大学での学びは土台。それがあるから自らの経験を積み上げられるのだし、現場で生きてくるのだと、仕事をしようになって実感しています。

### ■ 医学部陸上部



医学部陸上部は医療系の大学対抗戦を主な目標として週3回の練習を行っています。陸上経験者だけでなく初心者も一緒に和気藹々とした雰囲気です。勉強との両立を図りながら多くの部員が自己ベストを更新しています。種目は短距離、中距離、長距離、跳躍、投擲で、マネージャーさんにも日々助けられながら活動しています。練習場所は主に昭和キャンパスから近い敷島公園で行っています。



### ■ 医学部軽音部



医学部軽音楽部では、ボーカル、ギター、ベース、ドラムのみならず、キーボードや管楽器、バイオリンなど様々なパートの人が、初心者から長年の経験者まで幅広く在籍しています。月一度のライブ活動や夏の合宿を通して、楽しく充実した学生生活を送ることができます！また、医学部軽音楽部という名前でありながら医学部以外に、教育学部や理工学部の学生もいて交友関係も広がります！ぜひ一度足をお運びください！



### 昭和キャンパス サークル

※その他、荒牧キャンパスにも多彩なサークル活動があります。

スポーツから芸術、ボランティア、医学部ならではのサークルまでバラエティに富んでいます。

■ **運動部** El Bolos (ボウリング) / Et's (バスケットボール) / Get's (サッカー) / Let's Met's (野球) / Vit'z (ダブルダッチ) / 合気道部 / アイスホッケー部 / 弓道部 (医学科) / 弓道部 (保健学科) / 剣道部 (医学部) / 硬式テニス部 (医学部) / ゴルフ部 (医学部) / サッカー部 (医学部) / 柔道部 / 準硬式野球部 (医学部) / 水泳部 / スキー部 (医学部) / ソフトテニス部 (医学部) / 卓球部 (医学部) / バスケットボール部 (医学部) / バドミントン部 (医学部) / バレーボール部 (医学部) / バレーボール部 (保健学科) / フットサルサークル (医学部) / ラグビー部 (医学部) / 陸上部 (医学部) / ワンダーフォーゲル部

■ **文化部** AAA☆Kids (ボランティア) / ELMO (グループ体験学習) / e∞gg (自主ゼミ) / Flow Orchestra / Fore-Bridge Orchestra (FBO) / FORS (国際医療ボランティアの会) / Guit's (アコースティックギター) / LEADS (ボランティア) / MD-PhD勉強会 (ド学連) / origin (折紙研究会) / Pico (合唱) / Voice Cream (アカペラ) / 医学部★ダンスサークル (M★DC) / 囲碁将棋部 / 映画研究会 / エレクトーン部 / 軽音楽部 (医学部) / 写真部 (医学部) / でんでんむし (医学部、手話) / 天文部 / 東洋医学研究会 / ピアノ部 / 美術愛好会 / ヒリヤード部 / ボードゲーム倶楽部 / マンドリンソサエティ / モダンジャズ研究会 (医学部) / 野草を食べる会 / 夢のわたらせなないろ号 (ボランティア)

### COMMITTEE 学友会

学友会は、医学科及び保健学科の全学生により構成される組織です。年に2回「教職員との懇談会」を開催し、大学生活をより良いものとしていくため、大学施設に関すること、授業・カリキュラムに関すること等について意見交換を行っています。その他、新入生への大学生活に関するアドバイス、部活・サークルのとりまとめ等も行っています。

### COMMITTEE 医学祭 実行委員会

2年に1度昭和キャンパスで開催される群馬大学医学祭は、学年・学科を超えた交流や大学周辺地域の方々との交流を目的とし、医学部ならではの様々なイベントが企画されます。

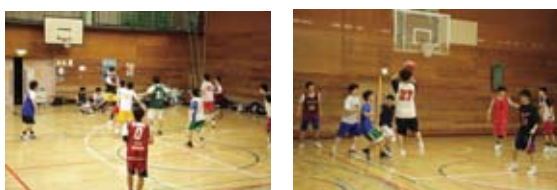


## ■ 医学部バスケットボール部



群馬大学医学部バスケットボール部です。私たちは、男子部22人、女子部15人さらにマネージャー 10人で週3日活動しています。部員は医学科だけでなく保健学科の人もいるので、幅広い交友関係を築くことができます。練習以外にも楽しいイベントがたくさんあります！

経験者はもちろん、初心者の方も私たちと一緒に充実した学生生活を送ってみませんか？お待ちしております！



## ■ 保健学科バレーボール部



群馬大学保健学科バレーボール部です。現在13名でみんな仲良く楽しく活動しています！メンバー全員でごはんや遊びに行くこともあり、とても充実しています！一緒に楽しくバレーをしたい方、お待ちしております！！



## オープンキャンパス

### 昭和キャンパス

■ 対象：主に高校2・3年生 ※高校1年生も可

開催日 **7月27日(木)** 医学科

**8月9日(水)** 保健学科

### 荒牧キャンパス

■ 対象：主に高校1・2年生 ※中学生も可

開催日 **7月9日(日)**

「群馬大学1日体験デー「GU' DAY」



※詳細やお申込みは、群馬大学ホームページ <http://www.gunma-u.ac.jp/> をご確認ください。



## 施設紹介

### ① 群馬大学総合情報メディアセンター図書館部門 医学図書館



医学図書館では、国内外の医学・医療専門書13万冊と3600タイトルの学術雑誌を所蔵し、6700タイトル以上の電子ジャーナルを利用できます。



#### ラーニングcommons

グループで協同学習するためのコミュニケーションエリアです。可動式テーブルとホワイトボードを組み合わせ、話し合いながら自習できます。



#### パソコンコーナー/セミナー室

PubMed、医中誌 Web などの医学文献データベースを利用し、国内外の医学情報を検索できます。また、OPAC（図書館所蔵目録データベース）を利用し、館内の所蔵情報を調べることができます。



#### 閲覧室

閉館後も24時間利用できるサービスを提供しています。いつでも必要ときに資料を見ることができます。閲覧席は150席余となっています。



#### ライブラリー「患者さんのこころ」

「良医養成のための体験的・実践的専門前教育」を支援するため、開病記・介護記・ホスピス・医療事故・医療倫理関連図書を取書しています。

### ② 生体調節研究所



ホルモンをはじめとする生体調節系の制御機構解明を目指す研究所です。その異常による疾患、特に糖尿病、動脈硬化などの生活習慣病の病態の解明を目指しています。



#### 研究室

「生体調節シグナルの統合的研究」のテーマで「文部科学省グローバルCOEプログラム・生命科学分野」において研究拠点として選出され、医学系研究科大学院とともに研究を推進しています。

### ③ 重粒子線医学センター



重粒子線によるがん治療を行っています。

### ④ 生体情報ゲノムリソースセンター



遺伝子工学の中心である組換えDNAの実験・研究技術の普及と、専門研究者の教育・養成などを行う学内共同利用施設です。

### ⑤ 刀城会館



医学部同窓会（刀城クラブ）の募金により建設された多目的施設です。緑にかこまれたキャンパスの南西にあり、学会、講演会、研修会、セミナー、入学・卒業行事などに利用されています。

### ⑥ RI研究棟



放射性同位元素を利用して、ごく微量の血清中ホルモンを測定するラジオイムノアッセイ法などを行う施設です。

### ⑦ 医学科・大学院医学系研究科



#### 基礎医学棟

解剖学、病理学、法医学など、基礎医学の研究・教育を担当する教員の研究室があり、医学の基礎研究が行われています。隣接して基礎医学を学ぶ教室や実習室があります。



#### 臨床研究棟

内科学、外科学などをはじめとする臨床医学を担当する教員の研究室があります。附属病院での診療と並行して臨床分野での研究が行われています。





## ⑧ 保健学科



**保健学科中央棟・西棟**

理学・作業療法学専攻の施設・教員研究室、大講義室などが配置されています。



**保健学科・新棟**

看護学専攻の施設・教員研究室が配置されています。また、ミレニウムホール、中講義室・大学院講義室などが配置されています。



**共用施設棟**

検査技術科学専攻の施設・教員研究室、医療基礎学の教員研究室、一部理学療法学専攻の施設及び教員研究室、さらに事務部が配置されています。また、医学科関連の施設も配置されています。



**ミレニウムホール**

21世紀のスタートに合わせて建設されたことから、有為な医療人を輩出する意義を込めて命名されました。講義・セミナー・講演などに使われています。



**臨床生体機能実習室**

専門科目分野の一つである、エコー、肺気量測定装置、心電計など画像診断学分野の実習が行われます。



## ⑨ 生協



**カフェテリア**

一日の大半を大学キャンパスで過ごす学生生活。不規則になりがちな食生活から寛ぎの時間も生協がバックアップ。



**食堂**

何と言っても「安い」「美味しい」「早い」が生協食堂のセールスポイント。もちろん栄養計算はばっちり。



**購買部**

日常雑貨、文房具、そして専門書まで購買部には何かとお世話になります。

## ⑩ 黒梅ホール



黒梅恭芳群馬大学名誉教授の名を冠した黒梅ホールは、医学科学生の学習環境を整備するために平成25年2月に新設されました。主に6年生の自習室として利用されています。

## ⑪ ゆめのご保育園



一般幼児と病児が対象で、本学教職員の利用を主としています。

## ⑫ 石井ホール



石井英男群馬大学名誉教授の名を冠した石井ホールは、医学部キャンパス内の質の高い交流・学習空間の集合体として計画され、コミュニケーション、学習、リラクゼーションの場となっています。

## ⑬ 群馬大学医学部附属病院



群馬大学医学部附属病院は、「患者さん中心の医療を推進する」という基本理念の基に、医療を受けられる皆様の権利を尊重しながら、最高最良の医療を提供することを目指しています。



**受付ロビー**

毎日多くの患者さんが病院には訪れます。受付から診療、薬剤処方、精算まで一連の医療活動を合理的なシステムが支えています。



**薬剤耐性菌実験施設**

本邦で唯一の薬剤耐性菌に関する専門的研究施設です。社会的に大きな問題になっている細菌が薬剤に対して耐性を獲得するしくみを遺伝学的、分子生物学的に研究しています。



**プロジェクト棟**

大学外組織との共同研究をはじめとする様々な医学領域の研究プロジェクトを行う建物です。



**実習棟顕微鏡実習室**

実習棟では、顕微鏡を使った実習などをはじめとする基礎医学の様々な実習が、最新の設備を使って行われています。



**診療室**

病気との闘いは患者さんと医療従事者との共同活動です。徹底したインフォームドコンセントに基づいて計画的な医療を進めています。



**手術室**

不幸にも外科的な処置が必要になる患者さんも数多くいます。附属病院で最新の技術と機器を駆使して多くの実績を築いてきました。



## 教育ポリシー

### 群馬大学の教育ポリシー

#### 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

～このような人を求めています～

<入学者に求める能力・資質>

群馬大学の理念、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな地域社会・国際社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を探求しています。

1. 高等学校の教育課程についての総合的な理解と大学教育を受け身にふさわしい基礎学力がある。
2. 専門分野を学ぶ上で必要な基礎知識と強い探究心、コミュニケーション能力を持っている。
3. 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている。
4. 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある。
5. 高い志と豊かな発想力を持ち、未来を切り開く夢と情熱を持っている。
6. 地域社会や国際社会に貢献する意欲とリーダーシップを持っている。

<入学者選抜の方針・方法>

群馬大学は、本学で学びたい学生に対し、その多面的な能力を評価し選抜するために、多様な受験機会・入学試験を提供します。また、本学の国際化推進基本計画に基づいて、海外からの留学生を積極的に受け入れる方針の下、受験機会を提供します。

本学の教育の目標、求める能力・資質に合致する学生を選抜するために、一般入試(前期・後期)の他に、特別入試としてAO入試、推薦入試、帰国生入試、社会人入試、私費外国人留学生入試、3年次編入入学試験等の入学試験を実施します。本学の入学試験では、それぞれの学部・学科・課程の専門・特性に合わせて、大学入試センター試験、個別学力検査、実技等試験、調査書、活動履歴、面接、小論文等を組み合わせて、総合的に合否を判定します。

#### 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

～このような教育を行います～

<教育課程編成と教育方法>

全学的な協働体制の下、教養教育と専門教育の融合を図り、幅広く深い教養、豊かな知性と感性、総合的な判断力、専門分野の基礎的能力を育成するため、学生の潜在能力を最大限引き出せる教育課程を編成し、実施します。本学の基本理念及び教育の目標を達成するために、本学の教育課程(カリキュラム)は以下の方針で編成されています。

1. カリキュラム・ポリシーを具現化するカリキュラム・マップに従った体系的な教育と、授業科目の目標・内容・教育方法・達成度(成績)評価方法等について詳述されたシラバスに基づいた教育を実施し、アクティブ・ラーニング等の学生の自主的な学習意欲を促す教育、授業時間外自己学習や学修の振り返りを促す教育等を幅広く行う。
2. 学士課程教育においては、全学共通の教養科目、学部別科目(専門基礎科目、一部の学部で開設)、及び専門科目、加えて学部独自の教養教育科目を、互いの融合を図りながら編成する。
3. 全学共通の教養科目は、学士力の育成の基礎となる教養基盤科目と、幅広く深い教養・総合的な判断力・豊かな人間性の涵養につながる教養育成科目の二つの科目群から構成される。個別の領域の知識を学ぶのではなく、それらを統合していく考え方の修得及び各学問分野に共通の思考・判断・表現法の修得につながる教育を行うことにより、学生が自らの教養と主体性を構築していくことを促し、また外国語も含めた汎用的技能の基盤を培い、アイデンティティの確立した知識人としての考え方ができる人材を育成する教育を行う。
4. 専門教育を学ぶ上で必須となる基礎的知識や技能の修得を目的に、高校教育と大学における専門教育との円滑な接合を助け、その分野の基本的リテラシーについて学ぶ教育を行う。また、専門分野に関連する分野についての基礎的理解と新しいアイデアを引き出すことに役立つ知識・技能の修得を図り、専門分野の知識・理解・技能の質の更なる向上を目指す教育を展開する。
5. 専門科目においては、次の能力の養成に向けた教育を行う。
  - (1) 専門分野の内容、社会的意義と限界を深く理解し、他者に説明・表現できる能力
  - (2) 専門分野に關係する諸分野についての基礎的理解があり、客観的な評価ができる能力
  - (3) 自らの専門分野の視点から現代世界が直面する諸変化の特性・特質を理解し、生起する諸課題について探究し、課題解決に実践的に取り組んでいくことができる能力

<学修成果の評価>

シラバスに記載の達成度(成績)評価方法に基づいて行います。

#### 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

～このような人材を育てます～

<卒業認定・学位授与の条件>

1. 以下の学修達成目標及び所属する学部・学科・課程が定める学位授与の要件を満足していること。
2. 所定の年限在学し、かつ所属する学部・学科・課程が定める単位を修得していること。

<学修成果の目標>

専門的知識、技能

1. 所属する学部・学科・課程の専門分野において求められる専門的知識・技能を修得し、現実の諸課題に対してその活用ができる。幅広い教養、学際性
2. 人間社会、歴史・文化、自然等についての幅広い教養と学際的理解に基づいて、様々な問題に対して多面的・総合的な判断ができる。論理的思考力、コミュニケーション力
3. 論理的思考力とコミュニケーション能力を持ち、社会で生起する問題に対し主体的に取り組む意欲を持っている。社会人としての自覚、国際性
4. 自然との共生を基盤とした豊かな人間性と広い視野及び社会的倫理観を持ち、社会から信頼され国内外で活躍することができる。

### 医学科の教育ポリシー

#### 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

～このような人を求めています～

医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることをふまえ、医学生として、科学的知(Science)、倫理(Ethics)、技能(Skill)の3つの面(SES)にわたって自己研鑽に励むことができる人

1. 豊かな感受性、奉仕の精神を備え、医師としてふさわしい資質を身に付けることを目指して、不断の努力を積み重ねられる人
2. 医療、医学研究、医学教育もしくは医療行政などの分野において、社会に貢献することへの志と強い信念を持っている人
3. 本学科の教育内容を理解するために必要な総合的基礎学力を十分に備えている人

<入学に際し必要な基礎学力>

特に日常的な学習が十分に行われていることが望ましいのは、国語と英語である。専門科目を学ぶために必要となるのは、数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・Bであり、理科では、受験科目にかかわらず、物理(物理基礎を含む)、化学(化学基礎を含む)、生物(生物基礎を含む)である。

#### 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

～このような教育を行います～

医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることを理解し、科学的知(Science)、倫理(Ethics)、技能(Skill)の3つの面(SES)にわたって生涯自己研鑽する力が付く教育

1. 自分をふりかえり他者を思いやる心が育ち、コミュニケーションを通して相互理解を図る態度が身に付く教育
2. 自然科学、医学、医療、人間と社会に関わる知を習得し、それを実践でいかす力が身に付く教育
3. 新たな課題にも対応できる問題解決能力が身に付き、リサーチマインドが育つ教育
4. 生涯にわたって社会貢献と自己研鑽に努める意欲が育つ教育

#### 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

～このような人材を育てます～

所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得した、次のような者に学士の学位を授与します。

医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることを理解し、科学的知(Science)、倫理(Ethics)、技能(Skill)の3つの面(SES)にわたって生涯自己研鑽を続けることができる者

1. 医師にふさわしい倫理観と責任感を有し、医療チームの中で医師として適切な行動をとることができ、他者と信頼関係を築ける者
2. 医師、医学研究者、医学教育者又は医療行政担当者となるために必要な知識を身に付けるとともに、新たな課題にも対応できる問題解決能力を修得した者
3. 医学知識に裏打ちされた臨床と研究の能力を修得し、患者により良い医療を提供する能力と、医学や医療の発展に貢献する意欲を備えた者

### 保健学科の教育ポリシー

#### 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

1. 豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。
2. 本学科での学修を通して、学士(看護学・保健学)に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。
3. 将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。
4. 保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
5. 看護師・助産師・保健師・臨床検査技師・細胞検査士、理学療法士、作業療法士となることを通じて、高度化・専門化する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

<入学者に求める能力・資質>

1. 柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持っていること。
2. 他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
3. 理系課題に対して、論理的な思考を行い、他人に説明できること。
4. 文系課題に対して、自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
5. 英文課題に対して、自らの考えと併せて他人に説明できること。

<入学に際し必要な基礎学力>

1. 各入学者選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

#### 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

～このような教育を行います～

知性と行動力を備えた人間性豊かな保健医療人材の育成を目指し、次のような教育を行います。

1. 全人的医療の担い手としての人間性の涵養と、専攻分野に必要な基礎力の育成を図る教育
2. 専門分野では基礎から臨床に亘る階層的知識の積み上げを図るとともに、先端の保健医療の学習にも配慮する教育
3. 保健医療の担い手としての主体的思考・行動力と豊かな感性を持つ人材育成を図る教育
4. チーム医療の担い手としての意識と、そこで必要な能力の育成を図る教育
5. 保健医療の諸課題に対応できる地域的視点と国際的視野を持つ人材育成を図る教育

### 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

～このような人材を育てます～

所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得し、各専攻のディプロマ・ポリシーが規定する学識と能力を持つ次のような者に学士の学位を授与します。

1. 保健医療の中核を担う専門職業人となるために必要な知識と技術を備え、人間の尊厳を尊重心を持つ者
2. 保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持つ者
3. チーム医療を担う自覚を有し、関係する人々との相互理解と円滑な協働関係が築ける者
4. 保健医療の諸課題に対し、多面的視点からの柔軟な思考、確かな判断と対応ができる者

### 看護学専攻

#### 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

1. 豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。
2. 本学科での学修を通して、学士(看護学)に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。
3. 将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。
4. 保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
5. 看護師・助産師・保健師・教育・研究者を育成する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

<入学者に求める能力・資質>

1. 柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持っていること。
2. 他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
3. 理系課題に対して、論理的な思考を行い、他人に説明できること。
4. 文系課題に対して、自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
5. 英文課題に対して、自らの考えと併せて他人に説明できること。

<入学に際し必要な基礎学力>

1. 各入学者選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

#### 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

～このような教育を行います～

<教育の目標>

1. 全人的医療の担い手として必要な基礎力を身に付けられる教育
2. 基礎的学識・知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けられる教育
3. 保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を身に付けられる教育
4. チーム医療の担い手としての意識と能力を身に付けられる教育
5. 地域的視点と国際的視野の両方を持ち保健医療の諸課題に広く対応できる能力を身に付けられる教育
6. 看護師国家試験を受験できる知識と技術を身に付けられる教育
7. 助産師及び保健師コース受講者については、助産師及び保健師国家試験受験に必要な知識と技術を身に付けられる教育

<教育課程の構成>

1. 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目、学部別科目からなる教養教育により、いろいろな考え方を学ぶことで、看護専門職のバックグラウンドとしての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
2. 専門基礎・支持科目では、保健医療の基礎・在り方を学ぶことで、看護専門科目を学ぶ、実践していくための授業を展開する。
3. 教養教育及び専門・基礎支持的科目を基盤として、専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。具体的には、専門科目では、
  - Ⅰ. 看護学の基礎を学ぶ。
  - Ⅱ. 対象や場に応じた看護学を学ぶ。
  - Ⅲ. Ⅰ、Ⅱを発展・統合する。という形式で、講義・演習・実験・実習を行い、専門分野での実践力を養う。

<教育内容・方法>

1. 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験・実習の各科目
2. シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3. シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の奨励
4. 実践力を養うための臨地実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて、1学期に1回、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

#### 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

～このような人材を育てます～

<学位授与の条件・達成度・能力評価の基準>

1. 所定の年限在籍し、かつ看護学専攻に定められた単位を修得した者
2. 看護師に必要な知識と技術を備え、高い倫理観を持つ者
3. 助産師及び保健師コース受講者については、助産師及び保健師に必要な知識と技術を修得した者

<学修成果の目標>

保健医療・福祉におけるチームの中で看護の専門性を発揮し、ケアの調整やマネジメントにリーダーシップを発揮でき、さらに、国際化



の進展に対応して世界の看護に視野を広げ、国際看護協力実践できる人材になること。

具体的には、

1. 全人的医療を理解し、実践するための能力を身に付けていること。
2. 医療の基礎となる、人間と生活・社会の理解や論理的・科学的思考を高める学問などについて修得していること。
3. 看護学分野での研究に必要な手法及び思考法の基礎を修得していること。
4. 看護学の対象となる人間のライフサイクル、人間理解を深める心理学・社会学の基礎理論や看護過程の方法論などの専門的知識と、看護実践能力を修得していること。
5. チーム医療を担う一員であることを認識しながら、看護活動の場の拡大に対応した看護実践能力を修得していること。
6. 国際的な視野を持ちながら、国や地域レベルの健康課題の解決とシステムづくりに関わる、看護実践能力を修得していること。
7. 助産師・保健師コースでは助産師・保健師に必要な知識と技術を修得していること。

## 検査技術科学専攻

### 入学受入方針(アドミッション・ポリシー)

～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

1. 豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。
2. 本学科での学習を通して、学士(保健学)に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。
3. 将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。
4. 保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
5. 臨床検査技師・細胞検査士となることを通じて、高度化・専門化する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

<入学者に求める能力・資質>

1. 柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持っていること。
2. 他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
3. 理系課題に対して、論理的な思考を行い、他人に説明できること。
4. 文系課題に対して、自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
5. 英文課題に対して、自らの考えと併せて他人に説明できること。

<入学に際し必要な基礎学力>

1. 各入学者選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

### 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

～このような教育を行います～

<教育の目標>

1. 全人的医療の担い手として必要な基礎力を身に付けられる教育
2. 基礎的学術力(知識、技能、態度、創造的思考力)を身に付けられる教育
3. 保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を身に付けられる教育
4. チーム医療の担い手としての意識と能力を身に付けられる教育
5. 地域的視点と国際的視野の両方を持ち保健医療の諸課題に広く対応できる能力を身に付けられる教育
6. 臨床検査技師国家試験を受験できる知識と技術を身に付けられる教育
7. 細胞検査士養成コース受講者については、細胞検査士資格試験受験に必要な知識と技術を身に付けられる教育

<教育課程の構成>

1. 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教育育成科目、学部別科目からなる教養教育、また専門科目への円滑な移行のための専門基礎・支持的科目により、全人的医療やチーム医療など保健医療従事者としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
2. これを基盤として、専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のため、実習、臨地実習、演習を重視し、専門分野での実践力を養う。

<教育内容・方法>

1. 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験・実習の各教科
2. シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3. シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の奨励
4. 実践力を養うための臨地実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学期に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

### 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

～このような人材を育てます～

<学位授与の条件・達成度・能力評価の基準>

1. 所定の年限在籍し、かつ検査技術科学専攻に定められた単位を修得した者
2. 臨床検査技師に必要な知識と技術を備え、高い倫理観を持つ者
3. 細胞検査士養成コース受講者については、細胞検査士に必要な知識と技術を修得した者

<学修成果の目標>

保健医療及び医療の基礎となる生命現象に対する知識・理論を理解し、検査技術科学分野の専門的知識と技術及び実践的応用能力を身に付けていること。

具体的には、

1. 全人的医療を理解し、実践するための能力を身に付けていること。
2. 医療の基礎となる化学、生物学、物理学、生理学、生化学、解剖学などについて、その基礎を修得していること。
3. 検査技術科学分野の新たな発展に必要な研究手法及び研究的思考法の基礎を修得していること。
4. 臨床検査技師に必要な検体検査、生理機能検査、病気の早期発見のための検査、遺伝子検査、画像解析などの基礎的・専門的知識と技術を修得していること。
5. チーム医療の重要性を理解し、実践するための能力を身に付けていること。
6. 国際コミュニケーションスキルと地域・国際社会の保健医療のあり方の基礎を修得していること。
7. 細胞検査士養成コースでは細胞検査士に必要な知識と技術を修得していること。

## 理学療法学専攻

### 入学受入方針(アドミッション・ポリシー)

～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

1. 豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。
2. 本学科での学習を通して、学士(保健学)に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。
3. 将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。
4. 保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
5. 理学療法士となることを通じて、高度化・専門化する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

<入学者に求める能力・資質>

1. 柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持っていること。
2. 他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
3. 理系課題に対して、論理的な思考を行い、他人に説明できること。
4. 文系課題に対して、自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
5. 英文課題に対して、自らの考えと併せて他人に説明できること。

<入学に際し必要な基礎学力>

1. 各入学者選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

### 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

～このような教育を行います～

<教育の目標>

1. 全人的医療の担い手として必要な基礎力を身に付けられる教育
2. 基礎的学術力(知識、技能、態度、創造的思考力)を身に付けられる教育
3. 保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を身に付けられる教育
4. チーム医療の担い手としての意識と能力を身に付けられる教育
5. 地域的視点と国際的視野の両方を持ち保健医療の諸課題に広く対応できる能力を身に付けられる教育
6. 理学療法士国家試験を受験できる知識と技術を身に付けられる教育

<教育課程の構成>

1. 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教育育成科目、学部別科目からなる教養教育、また専門科目への円滑な移行のための専門基礎・支持的科目により、全人的医療やチーム医療など保健医療従事者としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
2. これを基盤として、専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のため、実習、臨地実習、演習を重視し、専門分野での実践力を養う。

<教育内容・方法>

1. 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験・実習の各教科
2. シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3. シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の奨励
4. 実践力を養うための臨地実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学期に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

### 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

～このような人材を育てます～

<学位授与の条件・達成度・能力評価の基準>

1. 所定の年限在籍し、かつ理学療法学専攻に定められた単位を修得した者
2. 理学療法士に必要な知識と技術を備え、高い倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

保健医療の基礎知識・理念を理解し、理学療法学分野の専門的知識と技術及び実践的応用能力を身に付けていること。

具体的には、

1. 全人的医療を理解し、実践するための能力を身に付けていること。
2. 医療の基礎となる化学、生物学、物理学、生理学、解剖学などについて、その基礎を修得していること。
3. 理学療法学分野での新しい理論や治療技術の研究・開発の基礎を修得していること。
4. 理学療法理念を理解し、障害に対する評価方法と、その障害に

対する運動療法、物理療法、生活環境支援などの介入方法の基礎的知識と技術を修得していること。

5. チーム医療の重要性を理解し、実践するための能力を身に付けていること。
6. 国際コミュニケーションスキルと地域・国際社会の保健医療のあり方の基礎を修得していること。

## 作業療法学専攻

### 入学受入方針(アドミッション・ポリシー)

～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

1. 豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。
2. 本学科での学習を通して、学士(保健学)に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。
3. 将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。
4. 保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
5. 作業療法士となることを通じて、高度化・専門化する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

<入学者に求める能力・資質>

1. 柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持っていること。
2. 他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
3. 理系課題に対して、論理的な思考を行い、他人に説明できること。
4. 文系課題に対して、自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
5. 英文課題に対して、自らの考えと併せて他人に説明できること。

<入学に際し必要な基礎学力>

1. 各入学者選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

### 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

～このような教育を行います～

<教育の目標>

1. 全人的医療の担い手として必要な基礎力を身に付けられる教育
2. 基礎的学術力(知識、技能、態度、創造的思考力)を身に付けられる教育
3. 保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を身に付けられる教育
4. チーム医療の担い手としての意識と能力を身に付けられる教育
5. 地域的視点と国際的視野の両方を持ち保健医療の諸課題に広く対応できる能力を身に付けられる教育
6. 作業療法士国家試験を受験できる知識と技術を身に付けられる教育

<教育課程の構成>

1. 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教育育成科目、学部別科目からなる教養教育、また専門科目への円滑な移行のための専門基礎・支持的科目により、全人的医療やチーム医療など保健医療従事者としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
2. これを基盤として、専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のため、実習、臨地実習、演習を重視し、専門分野での実践力を養う。

<教育内容・方法>

1. 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験・実習の各教科
2. シラバスに詳述された、カリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3. シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の奨励
4. 実践力を養うための臨地実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学期に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

### 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

～このような人材を育てます～

<学位授与の条件・達成度・能力評価の基準>

1. 所定の年限在籍し、かつ作業療法学専攻に定められた単位を修得した者
2. 作業療法士に必要な知識と技術を備え、高い倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

保健医療福祉における病状や障害に関する医学・保健学の知識に加え、人体の構造やメカニズムを理解し、作業療法分野の専門的知識と技術及び実践的応用能力を身に付けていること。

具体的には、

1. 全人的医療を理解し、実践するための能力を身に付けていること。
2. 医療の基礎となる化学、生物学、物理学、生理学、解剖学などについて、その基礎を修得していること。
3. 作業療法学分野の新たな発展に必要な研究手法及び研究的思考法の基礎を修得していること。
4. 作業療法士に必要な作業療法の理論、身体障害、発達障害、高齢期障害、精神障害などの専門的知識と実践的応用能力を習得していること。
5. チーム医療の重要性を理解し、実践するための能力を身に付けていること。
6. 国際コミュニケーションスキルと地域・国際社会の保健医療のあり方の基礎を修得していること。

## 質問にお答えします。

### Q 勉強環境で知りたいことは

#### チューター制度とはどのようなものですか？

**A** 【医】【保】：群馬大学医学部では、入学と同時に学生一人ひとりに対して指導教員(チューター)を割り当てています。生活上での相談、学業や進路などの相談はもとより、学問への志や医療人としての心構えなど自由に聞くことができます。

#### 男子学生と女子学生の割合はどの程度でしょうか？

**A** 【医】【保】：学年によって多少の違いはありますが、医学科は男女比7：3、保健学科看護学専攻は1：9、検査技術科学専攻は2：8、理学療法学専攻は5：5、作業療法学専攻は2：8です。

#### 入学金・授業料免除、奨学金制度について教えてください。

**A** 【医】【保】：学業成績が優秀であり、経済的な理由で学業の継続が困難な学生のために、一定の基準を満たしている場合、入学金・授業料免除制度があります。また、日本学生支援機構等の奨学金を取り扱っています。詳細は、群馬大学ホームページの「受験生のみなさまへ」(<http://www.gunma-u.ac.jp/>)をご覧ください。

#### サークルやアルバイトと学業の両立はできますか？

**A** 【医】【保】：所属するサークルやアルバイトの職種等によってかなり左右されると思われますが、きちんとした自己管理と計画性を持っていれば、学業と両立させることは大抵の場合可能だと思われます。現在、多くの先輩がサークルやアルバイトと学業を両立させて医学部で学んでいます。

#### 実家が遠いため1人暮らしをすることになるのですが。

**A** 【医】【保】：1人暮らしをしている学生の大半は昭和キャンパス周辺にアパートを借りています。群馬大学生生活協同組合(<http://www.univcoop.jp/gundai/>)で紹介している物件をご覧くださいと様子が分かりますが、都心に比べると家賃は安めです。キャンパス周辺にはスーパーや飲食店が多く、生活を送るうえで非常に便利な環境といえます。

#### 研修施設はありますか？

**A** 【医】【保】：群馬のリゾート地として知られる北軽井沢と草津にあります。「北軽井沢研修所」は、元京都大学名誉教授 田辺元氏から寄贈された別荘を、5月上旬から10月中旬まで開所。「草津セミナーハウス」は、関東甲信越地区の国立大学が共同利用する合宿研修施設です。

### Q 将来を見据えた注目の資格について

#### 看護学専攻では、看護師の他に保健師と助産師両方の資格を取得できますか。

**A** 【保】：保健師コースと助産師コースの両方を履修することはできません。選抜試験を受け、どちらか一方を履修することになります。また、編入学生は、保健師・助産師コースを履修することはできません。

#### 保健師コースについて教えてください。

**A** 【保】：保健師は、乳幼児から高齢者まですべての人々を対象に、保健所や市町村保健センター、企業などの場において、健康教育や健康相談、健康づくり環境整備などの活動を行い、人々の健康の保持・増進を支援する国家資格です。

看護学専攻にこのコースがあり、3年次終了時に所定の科目の成績及び選考試験の成績を評価して、コース履修者(40名)を選抜します。コース履修者は、4年次にさらに保健師国家試験受験資格に必要なカリキュラムを履修します。

#### 助産師コースについて教えてください。

**A** 【保】：助産師は、女性の妊娠、出産、産後の各期を通じて、サポート、ケア及び助言を行い、助産師の責任において出産を円滑に進め、新生児及び乳児のケアするなど女性の性と生殖に関する生涯の健康を支えるために、女性とパートナーシップを持って活動していく国家資格です。

看護学専攻にこのコースがあり、3年次終了時に所定の科目の成績及び選考試験の成績を評価して、コース履修者(8名)を選抜します。コース履修者は、4年次にさらに助産師国家試験受験資格に必要なカリキュラムを履修します。

#### 養護教諭の免許が取得できるそうですが。

**A** 【保】：保健師国家試験に合格し保健師免許を取得すると、教育職員免許法に定める所定の単位を大学で修得している場合には、申請するだけで養護教諭(2種)を取得することができます。

#### 衛生管理者の免許が取得できるそうですが。

**A** 【保】：保健師国家試験に合格し保健師免許を取得すると、労働基準監督署に申請するだけで衛生管理者(第1種)を取得することができます。労働安全衛生法により、常時50人以上の労働者を使用する事業者は、専属の衛生管理者を選任しなければならないとされているので、保健師と衛生管理者の資格があると、産業保健の仕事に就くときに役立ちます。

#### 細胞検査士コースについて教えてください。

**A** 【保】：細胞検査士は、人の身体の細胞を顕微鏡下で観察して、それが正常な細胞なのか、あるいは悪性の細胞なのかなどを調べます。この資格は、国家試験ではなく、学会の認定試験に合格すると得られます。その認定試験の受験資格を得られるコースが設置されているのは、国立大学法人では群馬大学、弘前大学、山口大学の3校だけです。

検査技術科学専攻にこのコースがあり、3年次になってから選択することができますが、人数枠(毎年5名程度)があるため、履修者は選抜試験で決めます。

### Q その他

#### 理学療法士と作業療法士の違いが分かりにくいのですが。

**A** 【保】：理学療法士とは、治療体操や運動、マッサージ・電気刺激・温熱などの物理的手段を用いて、運動機能の回復を目的とした治療を行う人のことです。病気やケガにより、日常生活に支障を来した方々に対して、起き上がり、立ち上がり、歩行などの基本的な動作能力の回復を図る、身体的なりハビリテーションに携わります。理学療法の対象となる方は、新生児から高齢者、プロスポーツ選手などと幅広く、多方面での活躍が期待されます。

作業療法士とは、日常生活で行われる生活行為、家事、遊び、仕事などを治療手段として用い、障害を持つ人々や高齢者が身体や心の機能を回復させ、社会生活に参加することを支援します。大学では多岐にわたる活動の治療的な応用を学びます。最近では特別支援教育、介護予防、マネジメントの分野で注目され活躍の場が広がってきています。当専攻では作業活動の効果の研究に積極的に取り組んでいます。



北軽井沢研修所



草津セミナーハウス



## Q 先輩たちの進路は？

国家試験の合格状況を教えてください。

**A** 【医】【保】：過去3年間の合格状況は以下のとおりです。



■ 医師国家試験合格率推移

	群馬大学 (%)	全国 (%)
H29	90.1	88.7
H28	91.2	91.5
H27	92.1	91.2

■ 医師国家試験受験者数と合格者数推移

	受験者数	合格者数
H29	131	118
H28	113	103
H27	126	116



	保健師 (%)		助産師 (%)		看護師 (%)		臨床検査技師 (%)		理学療法士 (%)		作業療法士 (%)	
	群馬大学	全国	群馬大学	全国	群馬大学	全国	群馬大学	全国	群馬大学	全国	群馬大学	全国
H29	97.6	90.8	87.5	93.0	96.4	88.5	93.2	78.7	100.0	90.3	89.5	83.7
H28	97.8	89.8	100.0	99.8	98.8	89.4	92.9	76.4	85.2	74.1	100.0	87.6
H27	100.0	99.4	100.0	99.9	97.4	90.0	97.7	82.1	81.8	82.7	89.5	77.5

卒業後の進路について教えてください。

**A** 【医】：医師国家試験に合格した人は、卒業後の2年間は大学病院や教育指定病院で臨床研修医として専門に偏らずに幅広く研修し、その後、大学病院、一般市中病院、診療所、各種医療センターなどで専門領域のトレーニングを受けます。

なお、群馬大学の研修医になると、大学病院と市中病院を利用し、それぞれの長所を十分に生かし、各人の希望に沿った研修が可能です。また、大学病院では2年間の初期臨床研修修了後は、シニアレジデント制度を設けており、初期・後期研修の連続性を考慮した研修システムを構築しています。

**A** 【保】：保健学科卒業後、多くの学生は下記のように県内外の医療関連施設等で第一線の専門職として働いています。

## ● 卒業後の進路〈平成28年度〉

### ■ 看護学専攻

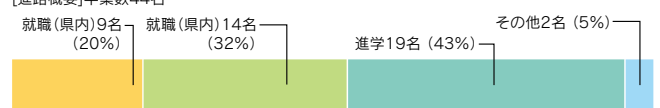
[進路概要]卒業数83名



**【就職先】** 群馬大学医学部附属病院、前橋赤十字病院、地域医療機能推進機構群馬中央病院、太田市役所、前橋市役所、公立藤岡総合病院、国立病院機構高崎総合医療センター、桐生市役所、桐生厚生総合病院、前橋市地域包括支援センター、利根中央病院、新座志木中央総合病院、埼玉協同病院、自治医科大学附属さいたま医療センター、埼玉医科大学病院、深谷赤十字病院、総合病院国保旭中央病院、国家公務員共済組合連合会 虎の門病院、医療法人社団 成仁病院、慶應義塾大学病院、東京都立墨東病院、聖路加国際病院、日本大学病院、八王子市医師会立訪問看護ステーション、自治医科大学附属病院、栃木市役所、獨協医科大学病院、医療法人社団 常仁会 牛久愛和総合病院、東海大学医学部付属病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、新潟市民病院

### ■ 検査技術科学専攻

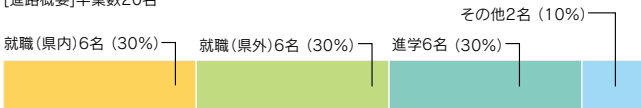
[進路概要]卒業数44名



**【就職先】** 前橋赤十字病院、キャリアアップ実務研修生(小児)、キャリアアップ実務研修生(心臓)、伊勢崎福島病院、伊勢崎市民病院、桐生厚生総合病院、関越中央病院、大宮シテイクリニック、埼玉県立循環器・呼吸器病センター、埼玉県立小児医療センター、春日部中央総合病院、戸田中央総合病院、千葉県済生会習志野病院、株式会社EP総合、国立病院機構関東信越グループ、水戸中央病院、筑波メディカルセンター病院、株式会社 日本セルネット、長野市民病院、地方独立行政法人 神戸市民病院機構 山梨県立中央病院

### ■ 理学療法学専攻

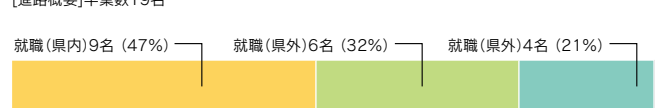
[進路概要]卒業数20名



**【就職先】** 前橋協立病院、老年病研究所附属病院、医療法人三省会 堀江病院、沼田脳神経外科循環器科病院、利根中央病院、三郷中央総合病院、西千葉整形外科、水戸済生会総合病院、鳥取県立中央病院、健和会病院、社会医療法人 中嶋病院

### ■ 作業療法学専攻

[進路概要]卒業数19名



**【就職先】** 美原記念病院、前橋赤十字病院、日高病院、平成苑、公立藤岡総合病院、内田病院、イムス太田中央総合病院、NPO法人リンケージ、久喜すずのき病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院、横浜新都市脳神経外科病院、国立病院機構関東信越グループ、竹重病院、佐久総合病院

## インフォメーション

### ■ 受験準備・入学試験

#### Q.過去問題の入手方法は？

- ▶ 医学科・保健学科とも過去の試験問題を公開しています。請求方法等、詳細については、  
・医学科：医学科ホームページ(<http://www.med.gunma-u.ac.jp/>)  
・保健学科：保健学科ホームページ(<http://www.health.gunma-u.ac.jp/>)  
をご確認ください。

#### Q.キャンパス見学は？

- ▶ 土日・祝祭日以外は原則的に見学可能ですが、必ず事前に学務課入学試験係へ電話等でご確認ください。見学する場合は、学務課入学試験係へお越しください。資料のお渡しや、ご質問にお答えします。  
なお、例年実施しているオープンキャンパスに参加していただくと、本学教員や在学生の話を聞くことができます。  
オープンキャンパスについては、33頁をご参照ください。

#### Q.授業見学の申込み方法は？

- ▶ 医学部保健学科では、高校生が自分の将来を考え、進路決定の際の参考のために、年間を通じて授業・実習の一部を見学できる制度があります。見学を希望する方は、授業見学申込書を学務課入学試験係まで送付してください。授業科目一覧、授業見学申込書は下記のURLからダウンロード可能です。  
(<http://www.health.gunma-u.ac.jp/admissions/med/inspection.html>)

### ● キャンパス・授業見学連絡先

群馬大学昭和地区事務部学務課入学試験係  
〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22  
TEL：027-220-8910 (医学科) 027-220-8909 (保健学科)

#### Q.出願するにあたり年齢制限(上限)はありますか？

- ▶ 医学科・保健学科とも年齢制限(上限)はありません。いずれの入学試験においても年齢はもちろん、性別、出身地、出身学校等の区別なく、全く同じ条件のもとで選抜を行っています。

#### Q.募集要項の発表時期はいつですか？

募集要項の種別	発表時期(予定)	備考
学生募集要項(一般入試)	10月上旬	ホームページのみ
推薦入試学生募集要項	9月中旬	入学願書付
帰国生・社会人入試学生募集要項		入学願書付
私費外国人留学生入試学生募集要項		ホームページのみ

請求・照会先 群馬大学学務部学生受入課入学試験係  
〒371-8510 前橋市荒牧町四丁目2番地  
TEL：027-220-7150



### ■ 学生生活

#### Q.学生生活支援は？

- ▶【学生教育研究災害傷害保険】  
学生が正課中、学校行事中、通学中、学校施設にいる間または課外活動中において、不慮の災害事故により傷害を受けた場合の補償救済制度です。
- ▶【生活協同組合】  
学生及び教職員の大多数が組合員となって組織・運営されている生活協同組合があります。書籍・日常生活用品を取り扱う購買部や、食堂、喫茶などを運営しています。また、下宿・アパートについて学生生活に適した部屋を紹介しています。
- ▶【学生寮】  
本学には、前橋地区に養心寮(収容人員：男子74名・女子62名、全室個室)があります。経費は、寄宿料が月額4,300円で、他に自治会費(3,000円/半期)、光熱水費(約6,000円/月)の実費が必要です。
- ▶【国際学生交換交流】  
医学部同窓会からの援助により、毎年3～4名の学生を、姉妹校提携しているインドネシア共和国バジャジャラン大学、タイ国立チェンマイ大学と相互に訪問するプログラムがあります。  
国際交流協定の提携は、この他にアメリカ合衆国のシアトルパシフィック大学、ワシントン大学、ニカラグアの国立自治大学マナグア校、中国の大連医科大学、南開大学生命科学学院、カナダのオタワ大学、モンゴルのモンゴル国立医科大学と行っています。

### ■ 受験準備・入学試験

#### Q.学費は？

- ▶ 入学時及び在学中に授業料の改定が行われた場合は、新授業料を適用します。毎年2期(前期：4月、後期：10月)に分けて徴収します。

入 学 料	282,000円
授 業 料	535,800円(年額)

#### Q.その他必要経費は？

##### ▶ 医学科

入学時に必要な経費(予定)	金額
刀城クラブ・同窓会終身会費	170,000円
後援会費(共用試験等受験料を含む)	100,000円(90,000円)
学生教育研究災害傷害保険料	4,800円(4,130円)
学研災付帯賠償責任保険料	3,000円(2,500円)
医療費補助会費	12,000円
荒牧クラブ・サークル協議会費	4,000円
学友会費	9,500円(8,000円)
テキスト代など	年間約150,000円程度

##### ▶ 保健学科

入学時に必要な経費(予定)	金額
同窓会終身会費	40,000円
後援会費	40,000円(20,000円)
学生教育研究災害傷害保険料	3,370円(1,790円)
学研災付帯賠償責任保険料	2,000円(1,000円)
荒牧クラブ・サークル協議会費	4,000円
学友会費	4,000円(2,000円)

学外実習交通費 看護・検査技術科学専攻では一部の実習が学外で行われ、旅費の負担が必要です。  
理学・作業療法学専攻では臨床実習の大半が学外施設で行われ、旅費や場合により宿泊費等の費用が必要となります。

テキスト代など 年間 50,000～70,000円程度(専攻による)

※かつこの金額は、編入学した場合

##### ▶【予防接種】

医学部学生は患者さん及び本人の感染防止のため、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B型肝炎・結核等の予防接種・感染症検査を受ける必要があります。なお、検査・ワクチン接種にかかる費用は自費となります。



■ 入学者選抜

● 平成30年度医学部募集人員(予定)

医 学 科	特別入試				一般入試		計	
	推薦	帰国生	社会人	私費外国人留学生	前期日程	後期日程		
医 学 科	35	若干名	—	若干名	73	—	108	
保 健 学 科	看護学専攻	30	若干名	若干名	若干名	33	17	80
	検査技術科学専攻	9				22	9	40
	理学療法学専攻	8				8	4	20
	作業療法学専攻	8				8	4	20
小 計	55	若干名	若干名	若干名	71	34	160	
計	90	若干名	若干名	若干名	144	34	268	

※医学部医学科の推薦入試の募集人員35名には地域医療枠10名程度、前期日程の募集人員73名には地域医療枠6名程度を含みます。  
 なお、地域医療枠16名のうち5名については、平成21年度緊急医師確保対策に基づく定員増の延長を認可申請中です。  
 申請が不認可となった場合には、推薦入試の募集人員35名には地域医療枠7名程度、前期日程の募集人員73名には地域医療枠4名程度を含むことになります。  
 詳細は平成29年11月初旬に本学ホームページで公表予定です。

● 選抜方法

医 学 科	特別入試				一般入試	
	推薦	帰国生	社会人	私費外国人留学生	前期日程	後期日程
医 学 科	●面接 ●小論文 ●出願書類 (調査書・推薦書・ 適性資質調査書等)	●学力検査(数学・理科) ●面接 ●小論文 ●出願書類	—	●日本留学試験 ●学力検査(数学・理科) ●面接 ●小論文 ●出願書類	●大学入試センター試験 ●学力検査(数学・理科) ●面接 ●小論文 ●調査書等	—
保 健 学 科	●面接 ●小論文Ⅰ(英語による出題) 小論文Ⅱ(文系の出題) 小論文Ⅲ(理系の出題) ●出願書類 (調査書・推薦書)	●面接 ●小論文Ⅰ(英語による出題) 小論文Ⅱ(文系の出題) 小論文Ⅲ(理系の出題) ●出願書類	●面接 ●小論文Ⅰ(英語による出題) 小論文Ⅱ(文系の出題) 小論文Ⅲ(理系の出題) ●出願書類	●日本留学試験 ●面接 ●小論文Ⅰ・小論文Ⅱ ●出願書類	●大学入試センター試験 ●小論文Ⅰ・小論文Ⅱ ●調査書	●大学入試センター試験 ●小論文Ⅰ・小論文Ⅱ ●調査書

※医学部医学科では、前期日程については志願者が約3倍を超えた場合にのみ2段階選抜を実施します。  
 ※医学部保健学科(前期日程・後期日程)について、理学療法学専攻及び作業療法学専攻のどちらにも進学意欲を持つ志願者は、出願の際に第2志望専攻を指定できます。

● 平成29年度入学者選抜実施状況

■ 医学科

	推薦	前期日程	帰国生	私費外国人留学生
募 集 人 員	35	73	若干名	若干名
志 願 者 数	114	313(219)	6	0
受 験 者 数	114	202	6	0
合 格 者 数	35	77	0	0
入 学 者 数	35	73	0	0

※志願者数の( )は、第1段階(第1次)選抜合格者数で、内数とする。  
 ※合格者数には追加合格者を含みます。

■ 医学科第2年次編入学

	第2年次編入学
募 集 人 員	15
志 願 者 数	225
第1次試験合格者数	60
第2次試験合格者数	17
入 学 者 数	15

※第2次試験合格者数には追加合格者を含みます。

■ 保健学科

	看護学専攻					検査技術科学専攻					理学療法学専攻					作業療法学専攻								
	推 薦	帰 国 生	社 会 人	前 期 日 程	後 期 日 程	推 薦	帰 国 生	社 会 人	前 期 日 程	後 期 日 程	推 薦	帰 国 生	社 会 人	前 期 日 程	後 期 日 程	推 薦	帰 国 生	社 会 人	前 期 日 程	後 期 日 程				
募 集 人 員	30	若干名	若干名	33	17	若干名	9	若干名	若干名	22	9	若干名	8	若干名	若干名	8	4	若干名	8	若干名	若干名	8	4	若干名
志 願 者 数	75	0	0	69	95	0	60	0	0	53	122	0	47	0	0	25	36	0	21	0	0	13	23	0
受 験 者 数	75	0	0	67	39	0	60	0	0	53	48	0	47	0	0	23	16	0	21	0	0	13	10	0
合 格 者 数	31	0	0	37	22	0	9	0	0	23	15	0	9	0	0	8	4	0	10	0	0	8	4	0
入 学 者 数	31	0	0	34	15	0	9	0	0	22	9	0	9	0	0	8	4	0	10	0	0	8	2	0

■ 保健学科第3年次編入学

	看護学専攻	検査技術科学専攻	理学療法学専攻	作業療法学専攻
募 集 人 員	10			
志 願 者 数	5	10	0	0
受 験 者 数	3	9	0	0
合 格 者 数	2	5	0	0
入 学 者 数	2	5	0	0



## 群馬大学医学部(医学科・保健学科)

■ 医学科 〒371-8511

群馬県前橋市昭和町三丁目39番地22号  
TEL.027-220-7111(代)  
<http://www.med.gunma-u.ac.jp/>

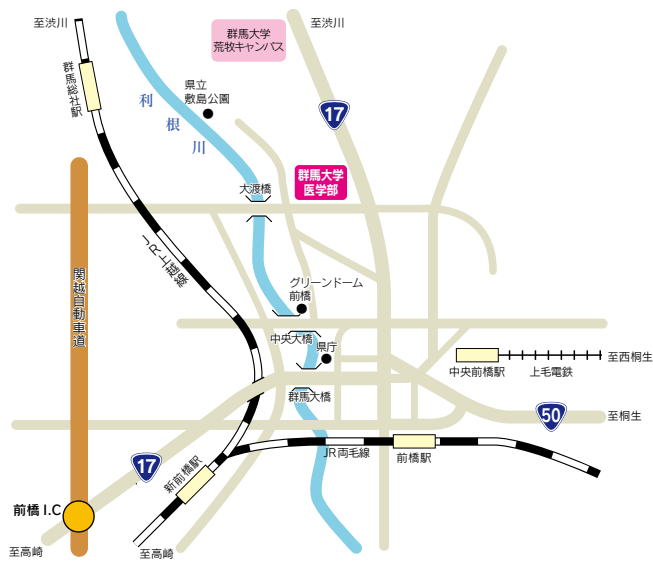
■ 保健学科 〒371-8514

群馬県前橋市昭和町三丁目39番地22号  
TEL.027-220-7111(代)  
<http://www.health.gunma-u.ac.jp/>

■ 入学に関するお問い合わせ

TEL.027-220-8908・8909・8910

LINE、Twitterでも群馬大学の入試情報等を配信中!



[前橋駅から] 渋川駅(小児医療センター)行バス乗車→群大病院入口下車 約13分 徒歩6分  
[前橋駅から] 群大病院行バス乗車→群大病院下車 約15分  
[渋川駅から] 前橋駅行バス乗車→群大病院入口下車 約30分 徒歩6分



[https://page.line.me/gunma\\_uni\\_ad](https://page.line.me/gunma_uni_ad)



[http://twitter.com/gunma\\_uni\\_ad](http://twitter.com/gunma_uni_ad)